

KUMAMOTO UNIVERSITY

INTEGRATED REPORT 2024

国立大学法人熊本大学 統合報告書 2024

KUMAMOTO UNIVERSITY

INTEGRATED REPORT 2024

国立大学法人熊本大学 統合報告書 2024

青空の下に咲くセイヨウニンジンボク

場所：熊本大学大江地区

薬学部の前身である官立熊本薬学専門学校の薬草園として1927（昭和2）年に開設。保有する植物数は2000種類以上で、日本薬局方に収載されている生薬の基原植物も多く保有している。また、旧細川藩の薬園であった藩滋園に由来するモクゲンジ、テンダイウヤク、サンシュユ、サンザシ、ニンジンボクが現存している。

表紙：トロロアオイ（薬用植物）

地域と世界に開かれ、 共創を通じて社会に貢献する 教育研究拠点大学



学長挨拶

国立大学法人は、国民の皆様に対し、財政状態や運営状況に関する説明責任を果たす観点から、財務諸表を作成し文部科学大臣の承認を得ること及びその公表が義務づけられております。

今般、令和5事業年度の財務諸表について文部科学大臣の承認を得ましたので、ホームページにおいて公表するとともに、財務情報のみならず、本学のより具体的な教育研究の成果や社会発展への貢献等をステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう、本報告書を作成いたしました。

熊本大学は、明治以来の伝統を有する旧制第五高等学校や熊本医科大学などを母体とし、九州における中核的総合大学として昭和24(1949)年に発足し、地域社会や国際社会と緊密につながりつつ、高度なレベルで教育・研究・社会貢献に取り組んでまいりました。

私は、令和3(2021)年4月に学長に就任以来、本学のこのような歴史や伝統を守りつつ、国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、スピード感を持って改革を進めてきました。

令和4(2022)年4月1日に公表した「熊本大学イニシアティブ2030」のもと、「地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学」を目指し、“常に情報を発信し続ける大学”、“常に外から見える大学”、“常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学”を基本姿勢として、社会のニーズの変化に応じた迅速な改革を着実に行ってまいりました。

世界有数の先端半導体工場の製造拠点が熊本県において本格的に稼働を開始したことに伴い、地域における高度情報・半導体人材の需要が急激に高まる中、本学は地域に根差す国立大学として、その高度人材の供給に応えることを責務と考え、DX、数理・データサイエンスの素養を身に付け、DX課題に対応できる人材を育成する新しい学部相当組織「情報融合学環」及び半導体デバイスの製造・評価・開発に携わる人材を育成する「工学部半導体デバイス工学課程」を令和6(2024)年4月1日に設置しました。

また、令和7(2025)年度には、情報・半導体産業を担う高度情報専門人材の育成を加速させるため、大学院自然科学教育部に新たに「半導体・情報数理専攻」の修士課程及び博士課程を同時設置する運びとなりました。

さらなる改革として、令和8(2026)年度には、佐賀大学との大学間連携により両大学教育学部の教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある人材育成、教育研究を実現する「教育学部共同教員養成課程(仮称)」及び地域社会から国際社会に至る様々な課題解決に貢献し社会イノベーションを担う人材を育成することを目指した新しい学部相当組織「共創学環(仮称)」を設置する準備を着々と進めております。

さらに、以前にも増してグローバル化が進展する地元熊本への教育の充実に貢献するため、附属小学校及び附属中学校に国際クラス(仮称)を段階的に設置予定であり、現在、附属学校国際棟(仮称)を建設中です。

このような大学改革・機能強化を行う一方で、昨今の物価高騰や人件費上昇、運営費交付金の減少などによる国立大学の厳しい財政状況に対応するため、支出の見直しに努めるほか、令和5(2023)年度からは、「ネーミングライツ事業」や「クラウドファンディング」等の新たな収入源確保の取組を開始するなど、財務体質の改善に努めております。

将来にわたり持続する大学を目指し、今後も積み重ねてきた信頼と実績を基盤として、強み・特色を活かした教育・研究・社会貢献の機能をより一層強化し、これらの成果を地域・社会・世界の発展のために積極的に還元していくことをお約束いたします。

本学を支え、応援して下さるステークホルダーの皆様や学生・教職員全員で熊本大学が目指す姿を共有し、全学を挙げて大学の機能の強化と拡充を推進してまいりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人熊本大学長

小川久雄



沿革

再春館から

1756 (宝暦6年9月) 約 **268** 年

五高から

1887 (明治20年5月) 約 **137** 年

歴史と伝統があります



学部等・大学院

8 学部等

学部

- 文学部
- 教育学部
- 法学部
- 理学部
- 医学部
- 薬学部
- 工学部
- 情報融合学環

6 大学院

大学院

- 社会文化科学教育部
- 自然科学教育部
- 医学教育部
- 保健学教育部
- 薬学教育部
- 教育学研究科



学生数

全国の国立大学で**20**番目 九州で**3**番目

9,835人

(令和6年5月1日現在)

※附属学校園除く

約 **6:4**

男 女

男女比率



職員数

2,746人

(令和6年5月1日現在)

※育児休業者等含む。有期雇用職員、再雇用職員等を除く。教員には個別契約職員を含む

うち教育研究職員

1,008人



研究

外部資金受入額

78 億円

(令和5年度)



包括的連携協定等

53 機関

(令和6年6月1日現在)



THE インパクトランキング 2024



SDG14 (海の豊かさを守ろう) が

国内 **1** 位にランクイン

総合ランキング国内同列 **14** 位にランクイン

「THEインパクトランキング」とは、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education」による、国連のSDGs(持続可能な開発目標)の枠組みを用いて、大学の社会貢献の取組を可視化するランキングです。

今回、熊本大学は、SDGs17項目のうち8項目にエントリーし、うちSDG14(海の豊かさを守ろう)が国内1位という高い評価を受けました。

本学は、総合ランキングにおいて国内同列14位、世界順位は301-400位(1,963大学中)にランクインしました。



©2010 熊本県くまモン



大学発ベンチャー企業数

全国 **31** 位(29社)

※令和5年度産業技術調査事業(大学発ベンチャーの実態等に関する調査)



国際交流協定数

274 機関

54 か国・地域

(令和6年5月1日現在)

※そのうち182機関は交換留学が可能な学生交流協定を締結。

contents	01	02	03	04	05
	ガバナンス体制	ビジョン・戦略	特集	活動報告	財務情報
02 学長挨拶	06 役員等	09 熊本大学イニシアティブ2030	12 「学長、情報融合学環長 × 情報融合学環第一期生」座談会	20 教育・学生支援	44 国民のみなさまへ
04 データで見る熊本大学	07 ガバナンス体制			25 研究	46 学生(保護者)のみなさまへ
	08 組織			29 産学連携・社会貢献	48 企業等のみなさまへ
				32 国際交流・グローバル	50 病院をご利用のみなさまへ
				36 病院	52 熊本大学基金
				40 附属学校園	56 令和5事業年度の財務の概要
					60 財務状況の変遷

ガバナンス体制

役員等 学長・理事・監事・副学長



小川久雄
学長



富澤一仁
理事・副学長
大学改革・評価担当



大谷 順
理事・副学長
研究・グローバル戦略担当
産学連携担当



宇佐川 毅
理事・副学長
教育・学生支援担当



水元豊文
理事・副学長
人事・労務・
キャンパスミュージアム担当



黒沼一郎
理事・事務局長
総務・財務・施設担当



宮尾千加子
理事(非常勤)
広報・ブランディング・
行政連携担当



渡辺啓子
監事
業務監査(常勤)



佐藤敏郎
監事
会計監査(非常勤・公認会計士)



平井俊範
副学長・病院長
病院経営担当



金岡省吾
副学長
地方創生・地域連携担当



市川聡夫
副学長
入試・高大連携担当



岸田光代
副学長
グローバル教育担当



倉田賀世
副学長
ダイバーシティ担当

(令和6年10月1日現在)

参与・特別参与

参与は、本学の役員及び職員以外の者で大学に関し広くかつ高い識見を有する者として、本学の経営戦略、地方大学活性化等に関し、学長に助言を行う役割を担っています。

特別参与は、参与の任務に加え、学長の求めに応じた渉外的及び専門的な事項等について調整、調査及び報告を行う役割を担っています。

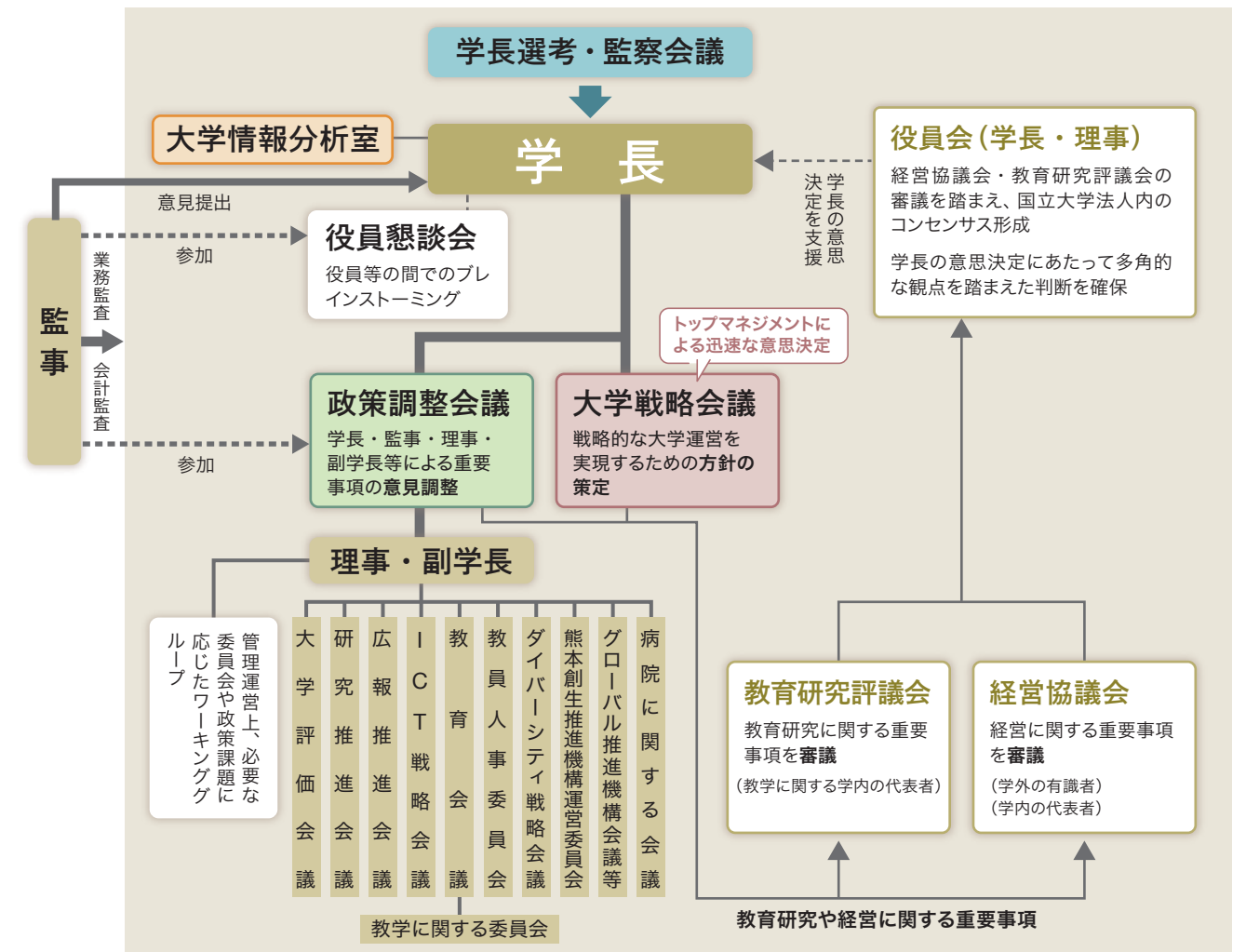
副理事・学長特別補佐

理事が担う法人の業務について、理事と連携しながら特定の業務を遂行する「副理事」及び学長が命ずる本学の教育研究活動に関する特別な事項を担当し、学長及び副学長を補佐する「学長特別補佐」を任命し、本学における教育研究活動や法人経営をさらに適切かつ効果的に進めるよう組織体制を整備しています。

経営企画委員

令和3年7月に定めた「国立大学法人熊本大学の人事基本方針」において将来の経営人材育成を掲げており、将来の法人経営を担いえる優秀な若手人材育成の取組として、令和3年10月から大学戦略会議に「経営企画委員」の仕組みを設けました。令和5年10月からは、第2期経営企画委員を選出し、常に経営課題に関する議論に触れられる立場として実践的な育成を実施しています。

ガバナンス体制



【参与】※50音順	蒲島 郁夫
	白石 隆
	菱山 豊
【特別参与】	丸山 洋司

【副理事】		
研究不正防止担当	大学院生命科学研究部	門岡 康弘 教授
研究、OIC 技術部改革担当	大学院先端科学研究部	峯 洋二 教授
広報担当	大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター	首藤 剛 准教授

【学長特別補佐】		
グローバル担当	大学院先端科学研究部	張 浩 教授
教養教育担当	大学教育統括管理運営機構	齋藤 靖 教授
キャンパスミュージアム担当	大学院教育学研究科	松永 拓己 教授
キャンパスミュージアム(五高記念館)担当	大学院人文社会科学部	三沢 純 教授

【第2期経営企画委員】(任期 令和5年10月～令和7年9月)		
人文社会科学系	大学院人文社会科学部	高木 康衣 教授
自然科学系	大学院先端科学研究部	大平 慎一 教授
生命科学系	大学院生命科学研究部	渡邊 博志 教授
技術職員・URA	技術部	山室 賢輝 技術専門員

組織 (令和6年4月1日現在)

教育研究組織等			
学部等	大学院(研究組織)	大学院(教育組織)	大学院(研究・教育組織)
文学部	人文社会科学研究部	社会文化科学教育部	教育学研究科
教育学部	先端科学研究部	自然科学教育部	研究所
法学部	生命科学研究部	医学教育部	発生医学研究所
理学部		保健学教育部	産業ナノマテリアル研究所
医学部		薬学教育部	病院
薬学部			熊本大学病院
工学部			
情報融合学環			
学内共同教育研究施設		施設・機構等	
永青文庫研究センター		大学院先導機構	附属図書館
くまもと水循環・減災研究教育センター		熊本創生推進機構	保健センター
先進マグネシウム国際研究センター		グローバル推進機構	障がい学生支援室
生命資源研究・支援センター		大学教育統括管理運営機構	文書館
環境安全センター		先進軽金属材料国際研究機構	大学情報分析室
埋蔵文化財調査センター		半導体・デジタル研究教育機構	キャンパス整備戦略室
		キャンパスミュージアム推進機構	ダイバーシティ推進室
		国際先端医学研究機構	
		国際先端科学技術研究機構	
		ヒトレトロウイルス学共同研究センター	

技術支援組織	事務組織			
技術部	監査室	経営企画本部	教育研究支援部	学生支援部
生命科学系技術室		研究・社会連携部	図書館課	教育支援課
自然科学系第一技術室		研究推進課	情報企画課	学生生活課
自然科学系第二技術室		社会共創推進課	人社・教育系事務課	入試課
自然科学系第三技術室		産学連携推進課	自然科学系事務課	就職支援課
全国共同利用・共同研究拠点支援グループ		国際部	生命科学系事務部	病院事務部
		国際戦略課	医薬保健学系事務課	総務課
		国際教育課	生命科学先端研究事務課	総務課
				経営戦略課
				経理課
				医事課
				医療サービス課
				施設部
				施設企画課
				施設管理課

02

ビジョン・戦略

熊本大学イニシアティブ2030

Kumamoto University Initiative 2030

地域と世界に開かれ、
共創を通じて社会に貢献する
教育研究拠点大学

Vision 2030年に向けて



九州の中核的総合大学として
国・地域・分野
様々な枠組みを飛び越え
SDGsの達成を目指す



令和4年4月1日公表

01

ガバナンス体制・組織

02

ビジョン・戦略

03

特集

04

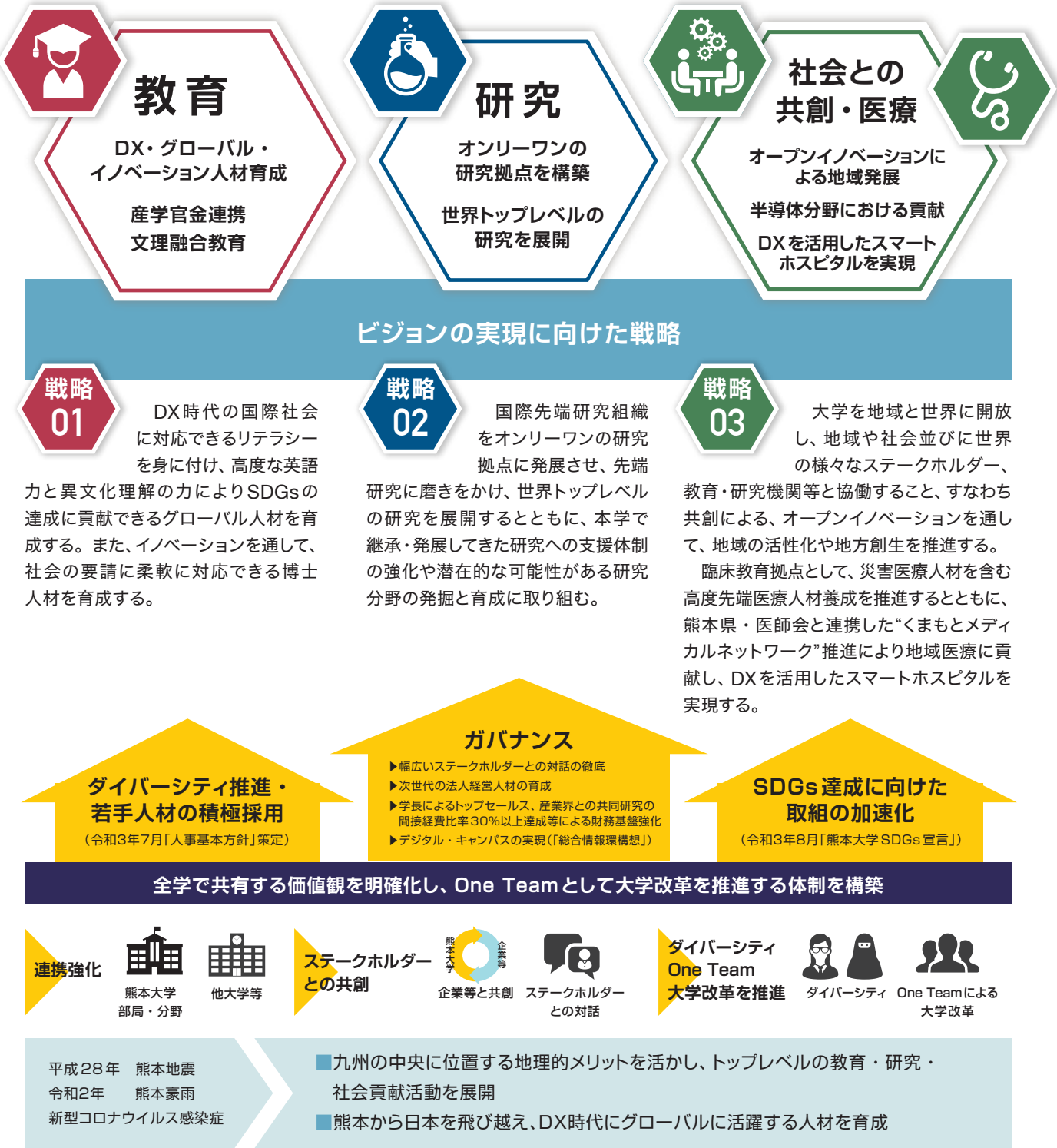
活動報告

05

財務情報



常に情報を発信し続ける大学
常に外から見える大学
常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学



Vision

地域と世界に開かれ、 共創を通じて社会に貢献する 教育研究拠点大学を目指して

令和元年(2019年)末から始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により社会情勢が著しく変容していく中、地球規模でデジタルイノベーションが急速に進むとともに、ニューノーマル時代が到来している。デジタル・トランスフォーメーション(DX)による社会の変化がもたらす課題や、カーボンニュートラルへの挑戦、食糧、資源、覇権等を巡る地域紛争、エネルギー、環境、気候変動問題など、人類は直面する多くの複雑で困難な課題を解決しなければならない。また、国内に目を向ければ、令和14年(2032年)には18歳人口が100万人を割ると予測される超少子化の時代を迎える。

このように大学を取り巻く環境が急激に変化する中、熊本大学は九州地域の中核大学として、これまでの災害を克服してきた経験を活かしながら、2030年までの国連の掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて全力を尽くす。その上で、地域社会から地球規模に至る課題に常に向き合い解決に導くことができる人材の育成並びに研究の推進及び社会との共創による諸課題の解決に挑むことを宣誓する。

第4期中期目標期間[令和4(2022)～9(2027)年度]は国立大学の存在意義や真価が問われる時であり、熊本大学は、従来の大学経営や教育研究政策を社会のニーズ・現状に即して更に改革し、若手人材等の積極的な登用によるダイバーシティの推進及びSDGsの達成に向けた取組の加速化を柱として、学長の強力なガバナンスのもと、全教職員が組織・部局の垣根を越えて、One Teamとして大学改革を進める。「常に情報を発信し続ける大学」、「常に外から見える大学」、「常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学」を大学経営や教育・研究の基本姿勢に掲げ、大学を地域と世界に開放し、様々なステークホルダーと連携・協働することにより、教育、研究、社会との共創の諸活動を活性化し、地域・社会・世界に貢献する。

教育面では、日本人学生及び留学生に対する言語教育を必須の基盤として、その背景となる政治・文化・歴史等、国際社会で通用する人材育成のための教育を実施する。さらに、DX時代の国際社会で求められるリテラシーを身に付け、国内外で多岐にわたり、活躍できる真のグローバル人材を育成する。

研究面では、生命科学、自然科学並びに人文社会科学分野に設置した国際先端研究組織を我が国におけるオンリーワンの研究拠点到発展させ、世界トップレベルの研究を展開するとともに国内外から卓越した研究者が数多く集うような環境を整える。これらにより、人材の多様化・好循環を促進し、全学を挙げて研究力の向上に取り組む。

社会との共創の面では、オープンイノベーションセンターを学内に設置して産業界との連携を強化し、デジタル社会の基盤を支える半導体分野を中心に教育研究を活性化させるとともに、国、地方自治体、地元企業と共創し、地域産業の強靱化につながる取組を実施する。また、部局・分野毎に最も適切な枠組みで大学間、産学官金連携を強化し、様々なステークホルダーとの対話を通して、地域における社会変革や社会課題解決を図り、地域の活性化や地方創生を牽引する。

医療面では、災害医療人材を含む高度先端医療人材養成を推進するとともに、DXを活用したスマートホスピタルを実現する。

熊本大学は、予測困難な2030年を見据えて、「教育」、「研究」、「社会との共創・医療」の3つの戦略に基づく取組を実行することにより、“地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学”を目指す。

学長、情報融合学環長

新たな学部組織「情報融合学環」での学びを通して

小川久雄 学長

城本啓介 教授
情報融合学環長

熊本大学に75年振りの新たな学部組織として令和6年4月に設置された「情報融合学環」。その第一期生と学長・情報融合学環長との座談会を行いました。

既存の学部とは異なる文理融合の特色あるカリキュラムでの学びや、入学後の様々な経験を通して、学んだことや感じたこと、今後挑戦したいことをテーマに様々な思いを語り合い、終始にぎやかな雰囲気での対談となりました。

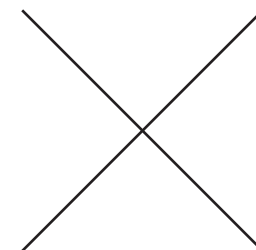
約半年間、情報融合学環で学んだ感想

城本 皆さんは現在、主に教養教育と数学・英語を中心とした講義を受けているところかと思います。情報融合学環の特徴として、1点目は1学年あたりの定員が他学部と比べると少人数（入学定員：60名）で、学生に対してきめ細やかな対応ができています。2点目は、文理融合の学環であるため、高校在学時に文系であった学生と理系であった学生が同じクラスで学んでいる点。3点目は、独自のプログラムが充実している点が挙げられます。特に3点目の独自のプログラムとしては、様々な企業から外部講師をお招きし、実際の現場を経験されてのお話を講義していただく機会や、所属教員が自身の研究について紹介するランチセミナー、また、米国政府と連携した英語プログラムがあります。その縁で、ラーム・エマニュエル駐日米国大使にお越しいただき、学生と交流を深めていただきました。その他、企業見学として、夏休みに半導体企業を訪問したり、情報融合学環の結束を強めるために留学生の先輩大学生が引率する合宿を行ったりしました。このような半年間を過ごしてきたと

と思いますが、皆さんはどのような思いで情報融合学環を受験したのか、また、実際に入学してどのような印象を持ったのかを、印象に残った講義・カリキュラムを含めて教えてください。

学生A 私が情報融合学環を志望した理由は、元々、将来情報セキュリティ関係の仕事に就きたいと思っていたからです。情報融合学環では情報関係にとどまらず、様々な分野を学ぶことができるという強みがあると考えました。実際に入学して、エマニュエル大使や、プロスポーツチームのデータサイエンティストの方などのお話を伺う中で、スポーツ、医学、自動車関係の分野でもセキュリティエンジニアが活躍していることを知り、自分の視野が広がりました。その分選択肢が増えて迷う部分もありますが、自分の将来を見つけるには良い環境だなと感じています。

学生B 私は八代出身なのですが、八代などの郊外地域は熊本市と比べて経済発展が進みにくい傾向があるのかなと感じていました。デジタルを活用することでより魅力的な郊外地域の発展に貢献したいと考え、この学環を志望しました。授業で「ITを活用した地方創生」を行っている企業の方の講義を受けて、今までは地方創生



情報融合学環第一期生

Round-table talk

情報融合学環1年
本田陽人さん情報融合学環1年
永松優空さん情報融合学環1年
松本吏功さん情報融合学環1年
嶋本渚沙さん

に対する考えがぼんやりしていたのですが、より自分のやりたいことや目標が見えてきました。また、直接企業訪問をさせていただく機会をいただき、実際に自分が興味のある分野で働く方々と交流を持つことができるところが、魅力的だと感じています。

学生C 私は（高校では）文系でしたが、文理選択をしたのは高校1年生の時、当時は正直あまり深く考えずに選択しました。学年が上がる中で、データサイエンスなどの理系の分野にも興味があることを自覚したのですが、入試科目が理系科目の大学がほとんどでした。そのような中で、たまたま文理融合で、文系の科目で受験ができる情報融合学環を知り志望しました。入学後も、特別何か興味を持てるものはまだ定まっていなのですが、Aさんが先程話していたとおり、幅広く学べるからこそ、特に目標が無くても様々な選択肢を持った状態でしっかり4年間学んでいけることが魅力だと思います。

小川 文系選択でも理系選択でも受験可能で、同じクラスで学べるのは非常に良いと思っています。Cさんは（高校では）文系だったようですが、入学後、数学で苦労することはありますか？

学生C 情報融合学環では『DS基盤数学演習』という

講義があるのですが、講義とは別にeラーニングでフォローアップを受けることができます。内容は簡単ではないですが、しっかり勉強すれば数学Ⅲ・Cの内容にもついていけるようになるので、文系でも大丈夫です。また、その他にも補習があり、担当の先生へ直接質問した際も丁寧に対応していただきます。

学生D 私は元々文理融合の学部がある大学に行きたいと考えていたので、ちょうど受験のタイミングで熊本大学に新しく文理融合の学環ができると知り、私が熊本出身であることもあって、これは運命だと思い、受験してみようと思いました。

小川 実際に入学してみてどうでしたか？

学生D 情報融合学環では数学と英語に力を入れていますが、私は元々数学と英語が好きだったので、非常に楽しく学んでいます。また、これまでに印象に残っていることとしては、様々な外部講師の方の講義を受けることができることで、非常に新鮮な経験をしていると感じていて、すごく楽しいです。

城本 講義をお願いしている外部講師の方は、実は学長からの紹介が多いんです。



短期留学プログラムに参加して感じたこと

城本 この座談会に参加している4人を含めて、情報融合学環から16名が夏休み期間中に1か月、テキサス州にある北テキサス大学 (University of North Texas) に滞在しました。様々な国の留学生と一緒に英語の授業を受け、午後は自由時間の日もあれば、現地の大学の方に調整していただき、日本企業の現地法人も含めてテキサスにある企業を3社見学させていただいたりしました。その他、Dさんは大学のクラブ活動(野球部)にも参加していました。



城本学環長

小川 野球部はどうでしたか？

学生D 楽しかったです。初心者の方も参加していましたし、メジャーリーグ入りを目指している本当に上手な人もいました。

城本 帰国してから約1か月経ちましたが、1人ずつ感想を聞かせてください。

学生A 私は元々英語が本当に苦手だったのですが、海外で仕事してみたいという気持ちもあったので、「行ってみるか!」という気持ちで参加しました。道ですれ違う人たちが気軽に話しかけてくれて仲良くなったので、自分も海外でやっていけるかも、という自信につながりました。また、企業見学に行った際に、現地で働く日本人のお話を伺うことができ、自分も挑戦できるかもしれないと感じました。

学生B 私は、海外に今のうちに行っておくと自分の視野

が広がるかと思い、参加しました。最初は自分を出すことが苦手だったのですが、現地では自分の意見をしっかり主張する人が多く、授業中も色々な人が活発に議論を交わしていました。時々自由過ぎる時もあったのですが、そのような光景を見て、自分も話しても良いんだ、怖がることはないんだということを知ることができました。

学生C 私は中学生の頃から海外に行きたいという気持ちが強くて、入学してすぐに、この短期留学プログラムの案内があったので参加しました。実際に参加しての感想は、私が受講した英語のクラスには30代以上の留学生が4名ほどいて、驚きました。日本の大学は若い人ばかりですが、(その4名は)年齢を重ねても積極的に授業を受ける姿勢が、日本ではあまり見られない光景だなと感じました。

小川 まさに多様性ですね。

学生D 私がこの留学を希望した理由は昔から海外、特にアメリカにずっと行きたいと思っていたのですが、小さい頃から野球をしていたのでなかなか海外に行く時間が取れず、大学生になったこのタイミングでチャレンジしてみようと思ったからです。メジャーリーグの試合観戦と現地のクラブ活動に参加して感じたのですが、日本とは雰囲気や盛り上がり方が全く違うと感じました。私もこのような環境で野球をやりたいと思いましたし、野球に対する価値観も少し変わりました。今まで経験してきた高校野球などでは、野球が嫌いになったこともありましたが、この留学を経て野球をするのがとても楽しくなりました。

小川 現地で実際に経験しないとわからないことですね。

城本 他に、行ってみないとわからなかったことや、「これだけは言っておきたい!」ということがある人はいますか？



University of North Texas

学生B 日本以上に人の温かさを感じました。アメリカの方はサバサバしたイメージがあったのですが、ホテルなどですれ違う度に挨拶してくれたり、エレベーターで一緒になった時も話しかけてくれたりしました。

小川 挨拶は大事ですね。皆さんも、会釈でも良いので、少なくともキャンパス内ですれ違う人に挨拶すると、色々なことが見えてくると思います。

城本 1年生の段階でアメリカに留学して、英語で困ることはありませんでしたか？

学生C (英語で困ることは)ないとは言えず、大学の中では比較的通じていても、お店で店員さんと会話するときに難しさを感じました。親切に話しかけてくださるのですが、聞き取りが難しく返答がうまくできず、微妙な雰囲気になってしまうことが何度かありました。

城本 大学の先生は慣れているので、どう話すと留学生に伝わるかが分かっている先生も多いですが、一般の方との会話はなかなか難しいですね。

学生A アメリカの方の英語は比較的聞き取れたのですが、(他国からの)留学生の英語を聞き取るのが難しかったです。

今後の展望について

城本 皆さんは、2年生から「DS半導体コース」と「DS総合コース」のどちらかに進むこととなります。両コース共にデータサイエンスを基盤としながら「DS半導体コース」は半導体について専門的に学ぶコースで、「DS総合コース」は文理融合で自分の興味のある科目を履修するコースです。皆さんの将来の進路を含めて、今後の目標や、目標に向かってどのような挑戦をしていきたいかについて、教えてください。

学生A 将来はセキュリティエンジニアになりたい気持ちが強いので、そのために資格取得を進めていきたいと思っています。前期に教養教育の科目として『ICTリテラシー』という必修の講義があり、その中で情報関係の資格が紹介されていたので、今の時点でも挑戦できるのではないかと思います。まずはITパスポートやセキュリティマネジメントの資格を取得するための勉強を進めていこうと思っています。

学生B 将来は地方創生の方面で活動していきたいと思っているのですが、今回アメリカに行って日本との違いを感じたので、もっと世界に目を向けて地方創生に取り組んでいきたいと思っています。そのためにも、もう1回は留学したいと考えています。

小川 具体的には、どのように地方創生に取り組みたいと考えていますか？

学生B 情報発信や、世界的に見た地方創生の成功例をデータとして収集して、共通点などを分析しながら、それぞれの地域に適した地方創生の方策を考えたいと思っています。





小川 昔はあまり知られていなかった地方の温泉街に大勢の外国の方が訪れたりしている例がありますが、現在はSNSで簡単に世界へ情報発信できるようになりましたからね。そのような、何か良い(地方創生の)方法を見つけられると良いですね。

学生C 将来、海外と関わる仕事をしたいと考えているため、大学での4年間は継続して英語学習に取り組もうと考えています。今回の留学先で親くなった留学生と今でもSNSを通して交流しているので、そのような交流を継続しつつ、4年間しっかり英語とデータサイエンスを学び、様々な舞台で活躍できるようになりたいと思っています。

学生D Cさんと同じで、将来は海外で働きたいと考えているので、しっかり英語を勉強し、海外の大学院も選択肢として考えています。また、もう一つ考えている将来の道は、野球関係の職に就くことです。先日、プロ野球チームのデータサイエンティストの方にお越しいただいた際に業務内容を知り、自分が選手にならなくてもこの業界に関わることができるということに、非常に憧れを持つようになりました。

データサイエンスの学びについて

城本 皆さんは学年が上がるにつれてデータサイエンスを専門的に学んでいくこととなりますが、学長をはじめとした様々な方に協力をお願いして、企業から提供いただいたデータを皆さんの実習に活用させていただくという形で講義を充実させていきたいと思っています。その参考にするためにも、皆さんの「データサイエンスを学ぶ」ということに対する意気込み、あるいは「データサイエンスをこのように活用したい」という希望をお聞かせください。

学生A 高校の課題研究で『ウイルス感染シミュレーション』を作成した経験を活かし、セキュリティインシデントの事例をデータとして収集して、今後の対策に役立つようなシミュレーションを作成したいと考えています。

学生B 先日講義を受けた企業では、各地の観光スポットなどを巡るスタンプラリーをLINEで作成しているのですが、そのスタンプラリーの知名度をどのように広げていくのかという質問をさせていただいた時に、対象者のデータ収集が必要であるとの回答をいただきました。個人情報の収集に使用するwebページ等の安全性を高め、より多くのデータを収集することにより、より多くの人が参加できるコンテンツを作りたいと考えています。

小川 残念ながら個人情報が悪用されることも多いので、より安全にデータ収集ができるような仕組み作りが大事ですね。

学生C 私も野球をしていたのでスポーツ分野にも興味

がありますし、元々経済学部を志望していたこともあり、経営やマーケティングにも興味があるので、データサイエンスを活かすことができるのではと考えています。人口減少によって労働力が減っていく中で、AIなどを活用して、効率的に企業経営を行う方法を提案するには、データを扱うことができる人材となることが必要なので、しっかり学びたいと思います。

学生D 私がデータサイエンスを活かしたい分野はやはり野球関係で、まずはこの学環に在籍中に自分のスイングなど、データサイエンスを使って可視化できるようにしたいと思っています。その後はチーム全体の分析も行い、データを活用して強豪校にも負けられないようなチーム作りをしていきたいです。

小川 まさに、情報融合学環にAI研究をしている教員が所属されていますから、ぜひ相談してやり遂げてください。

学長から、情報融合学環生に求めること

小川 皆さんは入学されて半年程ですが、非常によく考えて積極的に行動していると感じました。皆さんの目標が実現できるよう、大学側としてもサポートしていきたいと考えていますが、皆さん自身も、熱意を持ってできることから取り組んでいく姿勢を持ち続けてほしいと思います。また、皆さんは情報融合学環第一期生ですが、私自身も人生の中で色々な場面で「第一期生」=「その道の開拓者」になることが多かったので、自身の経験から皆さんにお伝えしたいことは、何もないところから始める面白さをぜひ感じてほしいということです。立ち上がったばかりの

組織で、伝統がないことに対して不安を感じることもあるかもしれませんが、「0(ゼロ)」から何かを形にする経験は、これからの就職活動や、人生でも必ず役に立つと思います。

最後に、何かをやるうとする時に、みんなで協力して取り組む姿勢を大事にしてください。そのために、大学の中でも様々な人と関わって、異分野の人と融合して人の輪を拡げていってほしいと思っています。まずは挨拶から。先ほどの留学先の話でも出ましたが、挨拶で人の輪は広がります。挨拶は全ての基本ですから、基本を大切にしながら人と融合し、新しいことを学んでいってください。

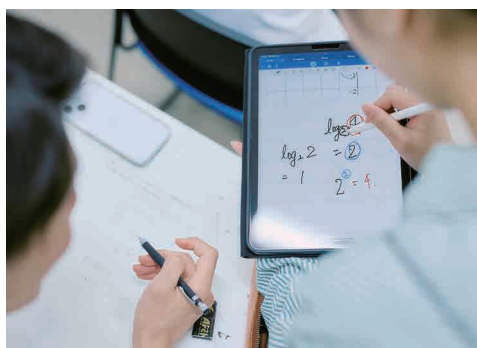
城本 皆さんには、とにかく自身の夢をしっかり定めて、その夢に向かって少しずつで構わないので、努力を続けていただきたい。そして、その夢が卒業時や将来に叶うことを願っています。



小川学長

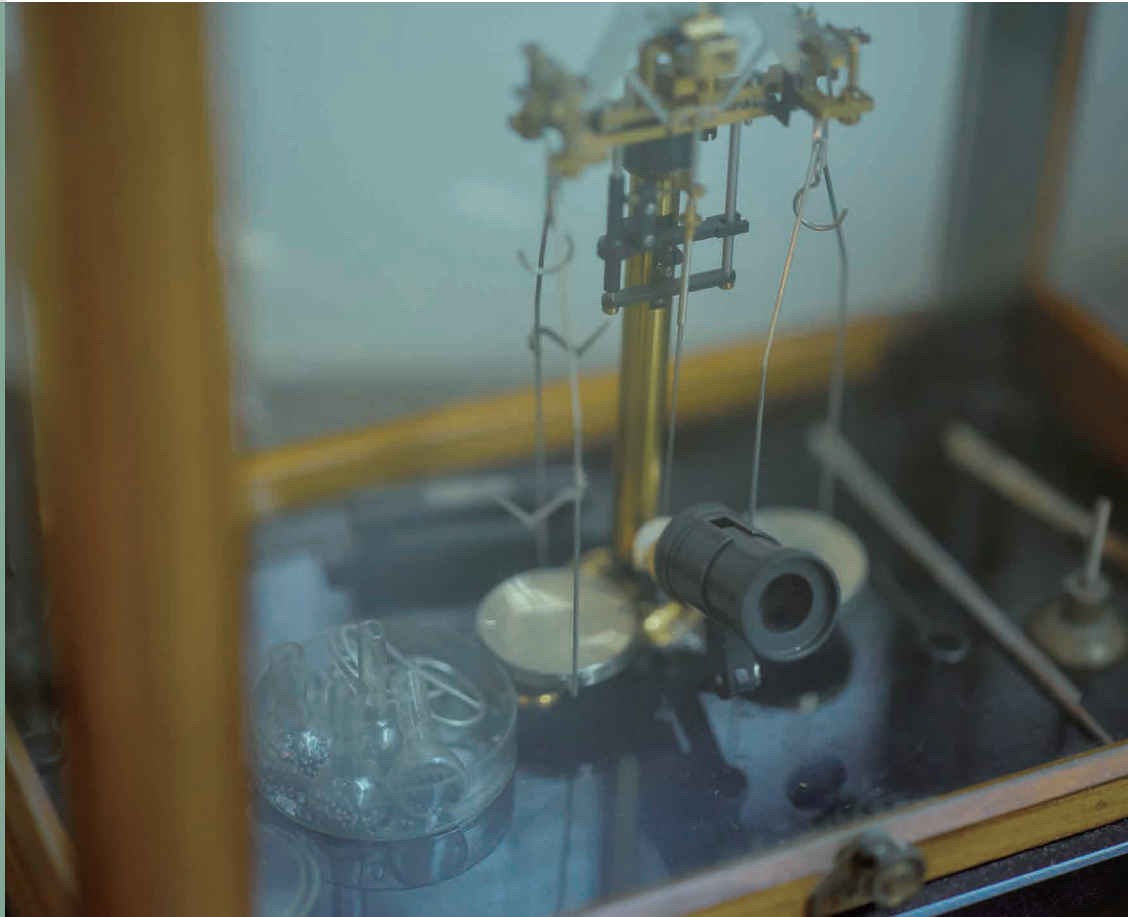


情報融合学環の
情報はこちらから→



高度情報・半導体人材育成のための講義室を備えたD Square完成予想図(完成予定2025年)

活動報告



『くすりの歴史』

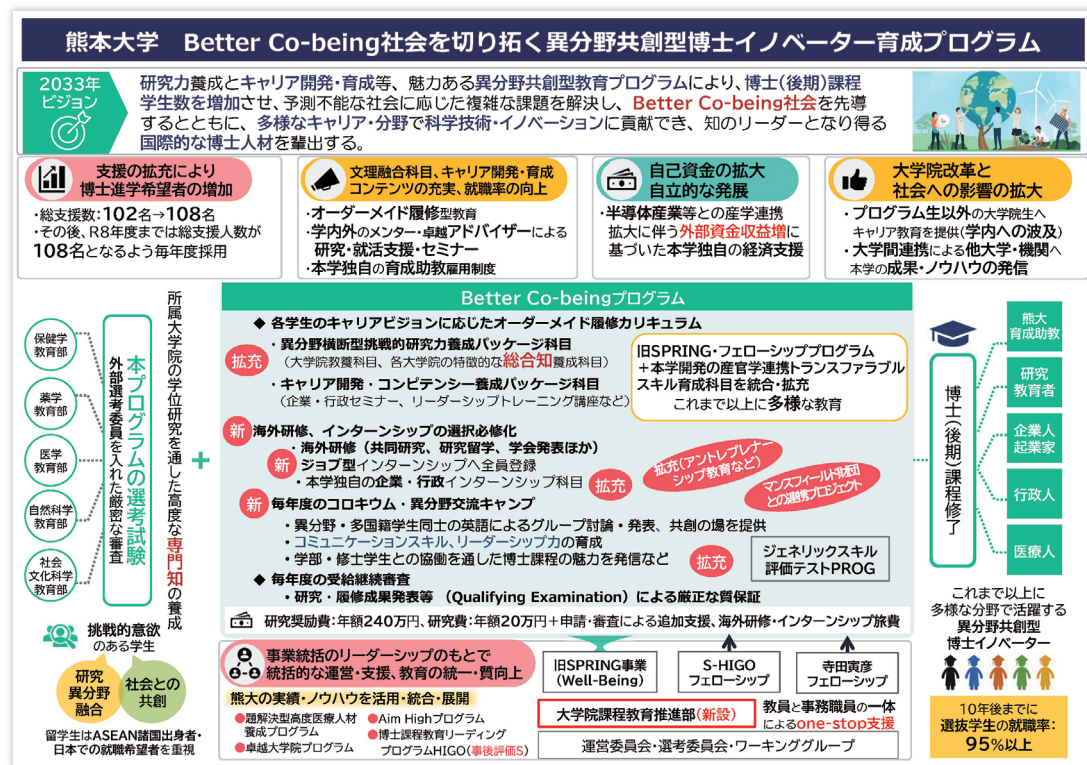
開学140年以上の歴史をもつ薬学部に関する貴重な資料や珍しい実験器具の展示をはじめ、くすりの知識などを紹介する様々なコーナーを設置している。

収蔵先：熊薬ミュージアム

博士人材の育成支援を推進

本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING）及び「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業（BOOST）次世代AI人材育成プログラム」の実施機関として採択され、令和6年度から新たに以下の2つのプログラムを実施しています。

■次世代研究者挑戦的研究プログラム「Better Co-being 社会を切り拓く異分野共創型博士イノベーター育成プログラム」（以下、「Better Co-beingプログラム」）（実施部局：社会文化科学教育部、自然科学教育部、医学教育部、保健学教育部、薬学教育部）



Better Co-being プログラムの概要

Better Co-being プログラムは、本学がこれまで実施してきた博士課程学生支援プログラムが一括化されたことに伴い、新たに採択されたプログラムです。

博士後期課程及び博士課程の学生の処遇改善を目的とし、プログラム生計108名に対して、研究専念支援金（生活費相当額（20万円/月））と研究費（20万円/年）を支給・配分します。

■国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業（BOOST）次世代AI人材育成プログラム「AI分野を先導する異分野融合型グローバル博士人材育成プログラム（Guide4AI）」（以下、「Guide4AIプログラム」）（実施部局：社会文化科学教育部、自然科学教育部、医学教育部、保健学教育部、薬学教育部）

Guide4AI プログラムは、緊急性の高い国家戦略分野として、次世代AI分野（AI分野及びAI分野における新興・融合領域）を設定し、同分野に資する研究に取り組もうとする博士後期課程及び博士課程の学生に対して、十分な

さらに、博士課程を有する5つの大学院が独自に展開してきた教育プログラムを統合し、「異分野横断型の挑戦的研究力養成」と「キャリア開発・コンピテンシー養成」の2つの分野から、学生が自身の希望に応じて履修できるオーダーメイド型教育プログラムとなっているほか、海外研修やコロナウーム（合宿研修）、研究・学修成果報告会など、異分野融合やキャリア形成につながる取組を実施しています。

生活費相当額（研究奨励費）及び研究費を支援することで、当該国家戦略分野の研究者層を厚くし、イノベーション創出や産業競争力を強化することを目的に、令和8年度までに計8名を対象に、研究専念支援金（生活費相当額



Guide 4AI プログラムの概要

（25万円/月）と研究費（90万円/年）を支給・配分します。

さらに、一定期間他の研究室に所属し、異分野の教育と研究のトレーニングを受ける「異分野横断修練システム」や、異分野融合・共創・キャリア形成のための海外派遣研修プログラム、Better Co-being プログラムと連携した合宿研修や研究・成果発表会等の取組が特徴となっています。

※プログラムの詳細はこちらをご確認ください：

熊本大学のノウハウを活かした新たなカタチの大学院教育 (<https://higoprogram.jp/>)



ウェブサイト



Better Co-beingプログラムのコロナウーム（合宿研修）の様子
Guide4AIプログラム生も参加しました。

小中学生を対象とした「くまもと未来ドクター塾」を実施

熊本大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の令和6年度「次世代科学技術チャレンジプログラム」の実施機関として採択されました。

その取組の一環として、熊本県とその近隣地域の小学5年生から中学3年生までの児童・生徒を対象とし、令和6年9月から「くまもと未来ドクター塾 ～水の国くまもとの自然と産業の共生をめざす未来の科学技術人材育成～」を実施しています。

熊本県では、半導体生産等に欠かせない地下水の保全が大きな課題となっており、自然と産業との共生をめざす人材の育成が急務です。地域やグローバルな環境問題、サステナビリティを意識したイノベーションを将来起こせるような科学技術人材の育成が本プログラムの目標です。



くまもと未来ドクター塾 ポスター

大学院教育学研究科及び
大学院自然科学教育部で改組を実施



熊本大学では、令和7年4月に教職大学院(教育学研究科専門職学位課程教職実践開発専攻)のもとに新たに「教育の国際化実践高度化コース」を設置します。

「教育の国際化実践高度化コース」は、学校や地域教育を深く理解し、教育の国際化や多様化、外国につながるある児童・生徒の生活・学習支援、グローバルマインドの育成等にかかわる深い理解と優れた資質・能力を持つ高度な教員養成を目的としています。

一方、大学院自然科学教育部のもとには新たに「半導体・情報数理専攻」を設置します。

また、新設に伴い、博士前期課程における既存の機械数理工学専攻を「機械システム工学専攻」、情報電気工学

専攻を「電気電子工学専攻」に改組します。

「半導体・情報数理専攻」の博士前期課程では、学士課程と連携した6年一貫的教育体制のもと、数理・データサイエンス、機械工学、半導体デバイス工学に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を身に付け、社会の持続的発展に貢献できる人材育成を目的としています。博士後期課程では、地域と国際社会に貢献する指導的役割を担う高度な専門性と研究能力を備えた人材育成を目的としています。

本学は、上述の新コース・専攻をはじめ、地域や国際社会が求める人材の育成に向けた教育・研究を推進していきます。

【旧】			【新】		
専攻	コース	募集人員	専攻	コース	募集人員
		一般入試 推薦入試			一般入試 推薦入試
教職実践開発専攻	学校教育実践高度化コース	10人程度	教職実践開発専攻	学校教育実践高度化コース	9人程度
	教科教育実践高度化コース	14人程度		教科教育実践高度化コース	13人程度
	特別支援教育実践高度化コース	6人程度		特別支援教育実践高度化コース	3人程度
				教育の国際化実践高度化コース	5人程度
合計		30人	合計		30人

新たなコース設置後の教職大学院の構成

【現行】			【改組後】		
自然科学教育部	博士前期課程	専攻	入学定員	自然科学教育部	博士前期課程
		理学専攻	110		
		土木建築学専攻	75		
		機械数理工学専攻	65		
		情報電気工学専攻	103		
		材料・応用化学専攻	90		

【現行】			【改組後】		
自然科学教育部	博士後期課程	専攻	入学定員	自然科学教育部	博士後期課程
		理学専攻	12		
		工学専攻	46		

改組に伴う自然科学教育部の入学定員推移

教養教育の改革を推進



熊本大学では、教養教育の改革を推進しており、令和6年度から新たに以下の科目を開講しています。

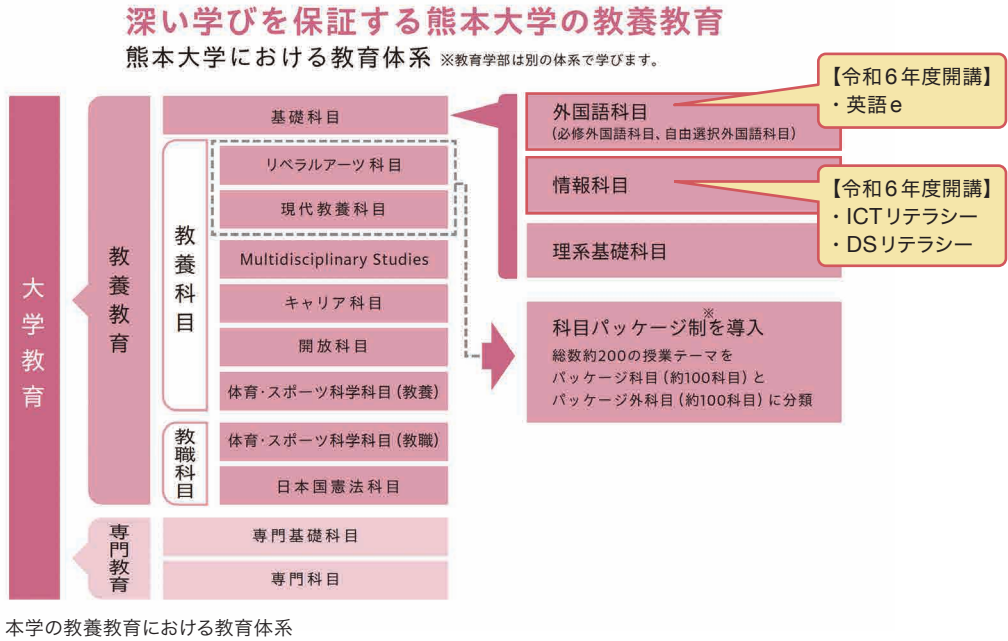
■外国語科目「英語e」

必修の外国語科目として、既修外国語科目(英語)において「英語e」を開講しています。この科目は、TOEIC-IPテストの受験を必須としており、学生が自身の英語力を把握できることや、オンライン英語教材を学生に提供し、進捗を管理できることなどが特徴となっており、授業時間にとらわれない柔軟な学習を可能としております。

■情報科目「ICTリテラシー」「DSリテラシー」

必修の情報科目として、「ICTリテラシー」「DSリテラシー」を開講しています。この科目では、パソコンの基本的スキルや社会での実践スキルを学ぶことができるほか、テキスト、演習課題等、すべてのコンテンツをオンラインで公開しており、受講生は授業時間の内外にかかわらず学習できることが特徴です。

さらに、熊本大学は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定を受けており、令和6年度以降入学者はこの2科目の修得のみでリテラシーレベルの認定を受けることが可能となっています。



本学大学院生がチアリーディング世界選手権で
金メダルを獲得、熊本市長を表敬訪問

令和6年1月16日、自然科学教育部博士前期課程の藤森優樹さんは熊本市長を表敬訪問し、令和5年11月25日に群馬県の高崎アリーナにて開催された第11回チアリーディング世界選手権大会男女混成スモールグループ部門に日本代表メンバーとして出場し、日本初となる金メダルを獲得したことを報告しました。表敬訪問の中では、チアリーディングの競技以外に、藤森さんの研究についても話が弾みました。

今回、スモールグループ部門の日本代表は、所属団体の異なる高校生、大学生、社会人の5人のメンバーからなり、練習場所も離れている条件下で結果を残しました。

令和6年1月16日 熊本市長表敬訪問時の様子(左から大西一史熊本市長、藤森優樹さん)



熊本大学「紫熊祭」(学園祭)、 熊本大学阿蘇耐久遠歩大会を開催

令和6年11月2日から11月4日までの3日間、黒髪北キャンパスにおいて、第13回熊本大学「紫熊祭」(学園祭)を開催しました。11月2日は天候不良のため、屋外でのテント企画等を中止しましたが、実施予定日を変更して行ったプロジェクションマッピングは、五高記念館を美しく彩りました。



令和6年11月9日に第59回熊本大学阿蘇耐久遠歩大会を開催しました。今回は、日中開催となり高森湧水トンネルをスタートし約50kmを完走・完歩しました。来年は第60回記念大会となるため、熊本地震前の阿蘇山頂スタートコースが復活できるように体育会は既に動き出しています。



飛べない鳥エミューの翼が短くなる新たなメカニズムを解明 —胚や胎児の運動の違いが形態の進化を引き起こす可能性—



東京工業大学 生命理工学院 生命理工学系の田中幹子教授と坪井絵里子大学院生(研究当時)、小野沙桃実大学院生、イングリッド・ローゼンバーグ・コルデイロ(Ingrid Rosenberg Cordeiro)大学院生(研究当時)らは、基礎生物学研究所の重信秀治教授、熊本大学のゴジュン・シェン(Guojun Sheng)教授、東京慈恵会医科大学の岡部正隆教授らと共同で、エミューの翼の骨格パターンの解析と翼の筋肉の発生プロセスの解析から、エミューの翼の退縮にこれまで知られていた遺伝的な原因だけでなく、新たなメカニズムが存在することを明らかにしました。

飛べない鳥であるエミューは、翼が著しく退縮していますが、その形態形成のメカニズムには不明点が多くありました。今回の研究では、エミューの翼の骨格が退縮しているだけでなく、左右非対称なパターンを示していることが分かりました。そして、その原因が翼の先端に筋肉が作られないために、胚発生中に翼をほとんど動かせず、骨の発生に必要なメカノストレス(用語1)を翼の骨になる細胞が十分に受け取れていないためであることが示されまし

た。さらに、エミューの翼の先端に筋肉がないのは、体節(用語2)由来の筋前駆細胞と側板中胚葉(用語3)細胞の二重のアイデンティティを持つ筋前駆細胞が存在し、これらが融合して筋繊維になるときに、細胞死(用語4)を起こすためであることを明らかにしました。今回の研究成果は、胚や胎児の運動の違いが、形態の進化を起こす可能性があることを示唆するものと言えます。

【用語解説】

- (1)メカノストレス：組織や細胞にかかる物理的な力、筋肉の収縮をはじめ、さまざまな力学的要因から生じる。この力は骨の発生や成長を含め、さまざまな組織の発達に重要な役割を果たす。
- (2)体節：発生中の脊椎動物の胚でみられるブロック状の構造であり、筋肉、骨、真皮など、体の主要な組織に発達する細胞が含まれる。通常、手や足の筋肉は体節由来である。
- (3)側板中胚葉：胚の外側に位置する中胚葉の一部で、手足の原基や体壁、心臓、血管などを形成する。
- (4)細胞死：細胞が死ぬ現象であり、発生過程や組織の維持において重要な役割を果たす。

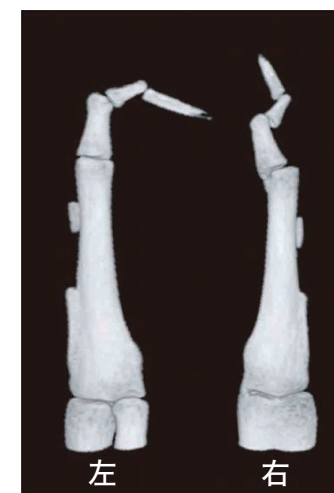


図1 エミューの翼の骨格：左右の骨格パターンにもばらつきがみられる例が多かった

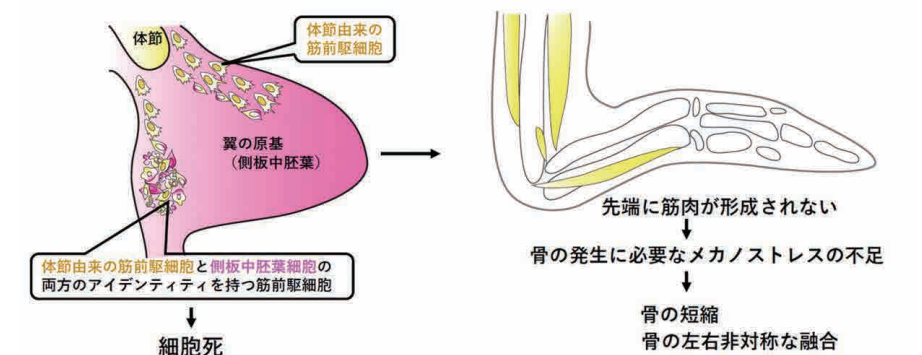


図2 エミューの翼の骨格形成のモデル

※本研究は、JSPS 科学研究費助成事業(20H03301、17KT0106)、MEXT 科学研究費助成事業 新学術領域研究「進化の制約と方向性」(18H04818)、三菱財団自然科学助成金、アステラス病態代謝研究会研究助成、山田科学振興財団研究援助、基礎生物学研究所共同利用研究(21-357)の支援を受けて実施されました。

※本研究成果は9月19日(現地時間)の「Nature Communications」で公開されました。



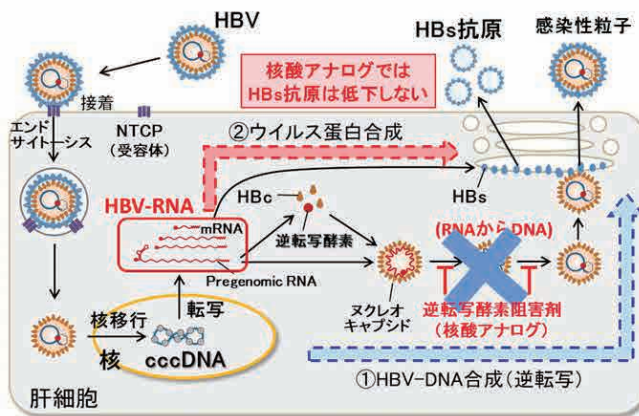
エミュー

B型肝炎の新薬開発に成功！ 新しい機序の治療法の開発は、いよいよ治験準備段階へ



熊本大学大学院生命科学研究部の田中靖人教授、渡邊文久助教、林佐奈衣特任助教らの研究チームは、血液中のHBs抗原及びB型肝炎ウイルス(HBV)の複製を抑制する、強力で経口投与可能な新たな低分子化合物「SAG-524」を開発しました。この化合物は、HBVのRNAを不安定化させることによって、ウイルスのDNA及び表面抗原(HBs抗原)の量を大幅に低減させることができます。また、経口投与が可能であり、マウス・サルを

用いた安全性試験では明らかな毒性は認めませんでした。B型慢性肝炎の標準治療である核酸アナログ製剤は、HBVの設計図であるHBV-DNAを強力に減少させますが、機能的治癒とよばれB型肝炎の治療目標である血液中HBs抗原の消失への寄与は限られていました。今回の新たな化合物発見により、B型慢性肝炎の機能的治癒への道が開かれることが期待されます。



現在の第1選択薬の
核酸アナログ製剤
のみでは
“Functional Cure”
の達成は難しい

新規治療薬の
開発が必要

※本研究成果は、2024年2月5日付で科学雑誌「Journal of Gastroenterology」(2024年4月号)に掲載されました。

※本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)肝炎等克服実用化研究事業「実用化に向けたB型肝炎新規治療薬の開発」の支援を受けて実施したものです。

貧血時に体内で赤血球が増える 新たなメカニズムを発見

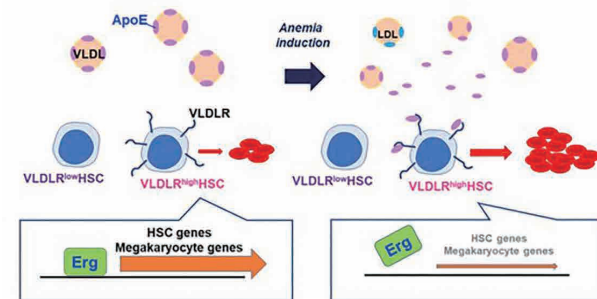


熊本大学国際先端医学研究機構の三原田賢一特別招聘教授らの研究グループは、スウェーデン・ルンド大学の研究チームと共同で、体内で赤血球が増える新たなメカニズムを発見しました。

急激な貧血を誘導すると、直後から造血幹細胞が増幅を開始し、脂質代謝に関係する超低密度リポタンパク質(VLDL)の結合する受容体(VLDL受容体、VLDLR)の働きが強くなっていました。さらに、造血幹細胞にはVLDLRが多く存在する造血幹細胞(VLDLR^{high}造血幹細胞)と、少ない造血幹細胞(VLDLR^{low}造血幹細胞)の2種類があり、前者の方が赤血球を作りやすい事も明らかになりました。貧血になったマウスの骨髄内では、VLDLが減る代わりにVLDLの中に含まれるアポリポタンパク質E(ApoE)が急速に増えており、ApoEがVLDLR^{high}造血幹細胞に作用すると、Erg(注1)という遺伝子の働きが弱まっていた。そこで、人工的に合成したApoEを与えたり、Ergの働きを弱めたりすると、健康なマウスの造血幹細胞

※本研究成果は令和6年9月16日(米国東海岸時間10:00)に科学雑誌「ネイチャー・コミュニケーションズ」に掲載されました。

でも赤血球を作りやすくなりました。これらのことから、急激な貧血が起るとVLDLからApoEが放出され、造血幹細胞のうちVLDLR^{high}造血幹細胞だけに作用して赤血球をより多く作れるように変化させていると考えられます。本研究により、これまでの治療では十分な効果が得られなかった重度貧血などの新たな治療法開発につながることが期待されます。



(注1)Ergとは、転写制御因子の一つで、血管新生や炎症、細胞の増殖・分化を制御する。造血幹細胞の機能及び血小板産生に重要な役割を果たすことが知られている。

SARS-CoV-2 関連コロナウイルス BANAL-20-236 株の ウイルス学的特性の解析



東京大学医科学研究所システムウイルス学分野の佐藤佳教授が主宰する研究コンソーシアム「The Genotype to Phenotype Japan(G2P-Japan)」(注1)は、SARS-CoV-2に近縁なコウモリ由来のウイルスであるBANAL-20-236株(B236株)のウイルス学的特性を、ヒト気道上皮細胞や大腸オルガノイド、ハムスターモデル等を用いて解析しました。

本研究では、コウモリ由来のB236株とSARS-CoV-2のウイルス学的特性を比較することで、パンデミックを起

こすウイルスの特徴について理解することを目指しました。ヒト呼吸器細胞モデルや大腸オルガノイドでの細胞実験により、B236株はSARS-CoV-2と比較して、ヒト気道上皮細胞よりも大腸オルガノイドへの指向性を持つことが示されました。また、ハムスターモデルを用いた感染実験では、B236株はSARS-CoV-2に比べて病原性が低いことが示されました。

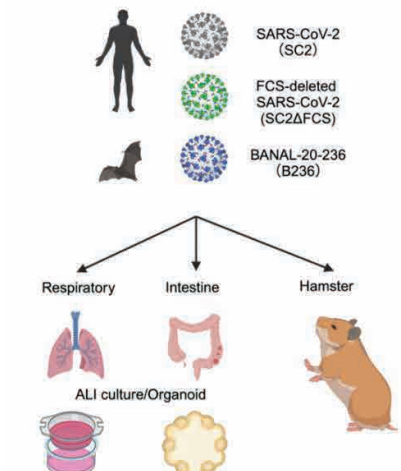


図1 本研究で使用したウイルスと実験モデルの概要

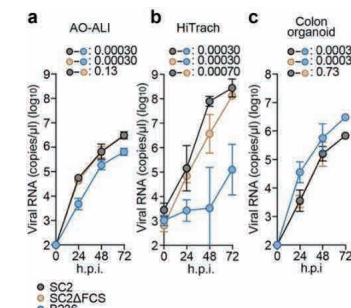


図2 細胞株およびヒトオルガノイドでのウイルス感染実験

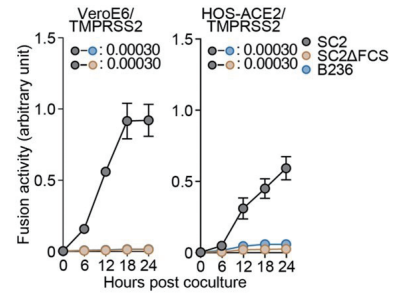


図3 合胞体形成活性の評価

(注1)研究コンソーシアム「The Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan)」東京大学医科学研究所 システムウイルス学分野の佐藤教授が主宰する研究チーム。日本国内の複数の若手研究者・研究室が参画し、研究の加速化のために共同で研究を推進している。現在では、イギリスを中心とした諸外国の研究チーム・コンソーシアムとの国際連携も進めている。

※本研究成果は2024年6月4日、英国科学雑誌「eBioMedicine」オンライン版で公開されました。〈題名〉Virological characteristics of a SARS-CoV-2-related bat coronavirus, BANAL-20-236

巨大な圧電応答を示す材料の開発に成功 —高密度エネルギーハーベスティング材料として期待—



熊本大学大学院先端科学研究部の寺澤有果実助教と名古屋大学大学院工学研究科の山内悠輔卓越教授、The University of QueenslandのMd. Shahriar A. Hossain准教授の研究グループは、ナノポーラスBa_{0.85}Ca_{0.15}(Ti_{0.9}Zr_{0.1})O₃薄膜の合成に成功し、巨大な圧電応答の発現を観測しました。

※本研究成果は、英国王立化学会(Royal Society of Chemistry)の発行するChemical Science誌に2024年5月20日に掲載されました。

※本研究は、科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業 総括実施型(ERATO)JST-ERATO物質空間テクトニクス、熊本大学共同研究支援事業の支援を受けて行われました。

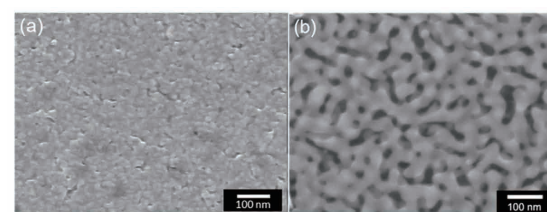


図1 走査電子顕微鏡画像。(a)バルク(ノンポーラス)BCZT薄膜、(b)ナノポーラスBCZT薄膜。ナノポーラスBCZT薄膜では、数十ナノメートルサイズのポーラス構造が観察された。

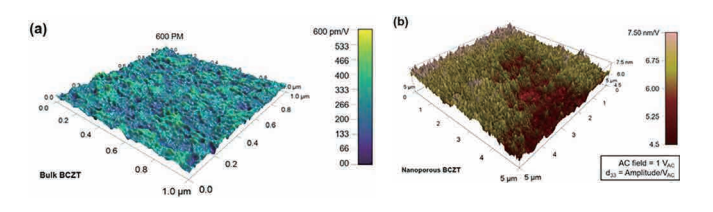


図2 d₃₃分布。(a)バルク(ノンポーラス)BCZT薄膜および(b)ナノポーラスBCZT薄膜。ナノポーラスBCZT薄膜では約7500pm V⁻¹、バルクBCZT薄膜では約600pm V⁻¹のd₃₃分布が観測された。

マグネシウム合金に革命！ 材料の原子配列を操り驚異的な強度で世界を変える

一新発見の「ミルフィーユ構造（ナノサイズの層状構造）」でさらなる高強度を実現—
画期的な超軽量金属素材により、カーボンニュートラル社会の実現に貢献



熊本大学の先進マグネシウム国際研究センターは、「キンク強化」という新規な材料強化法で高強度が発現する「ミルフィーユ構造」という軟質層・硬質層が重なったナノ層状構造を持ち、しかも難燃性も併せ持つ高強度マグネシウム合金を開発しました。開発したマグネシウム合金は、降伏強さ418MPaという、従来の汎用高強度マグネ

シウム合金に比べて1.7倍以上の高い降伏強さを持っています。ロケットや航空機、ドローン、自動車などの輸送機器の構造材料への適用を進めることで、軽量化による燃費やエネルギー効率の向上ならびに温室効果ガス排出量の削減が期待でき、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

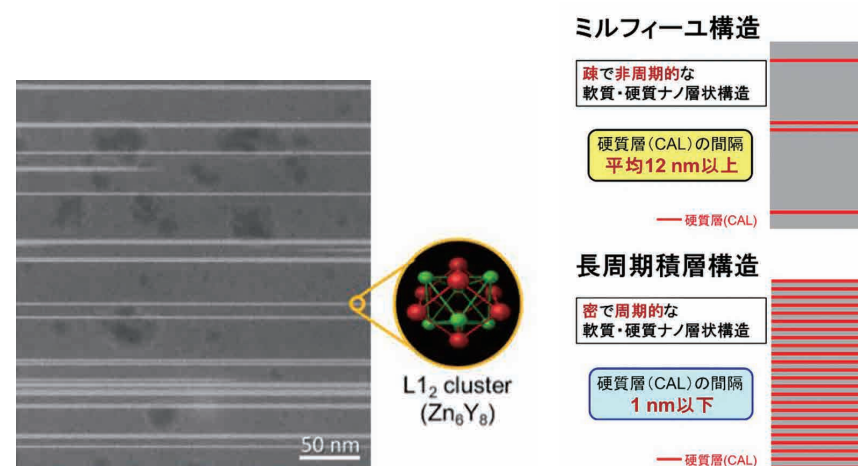


図1 ミルフィーユ型マグネシウム合金におけるミルフィーユ構造の電子顕微鏡写真

図2 ミルフィーユ構造と長周期積層構造との相違

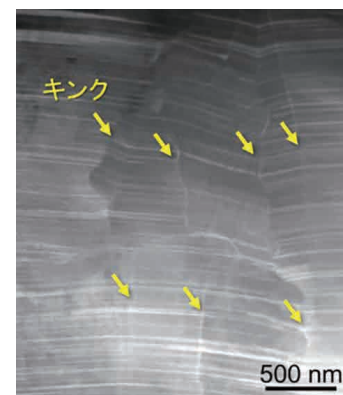


図3 ミルフィーユ型マグネシウム合金に形成されたキンクの電子顕微鏡写真

ミルフィーユ型マグネシウム合金の特徴

- ① 材料全体に「ミルフィーユ構造」という疎な軟質・硬質ナノ層状構造を持つ
硬質層 (CAL) の間隔が12nmと広い
(KUMADA/耐熱マグネシウム合金の26%を占める長周期積層構造の12倍)
- ② キンク強化により極めて高い降伏強さを持つ
降伏強さが418MPaと極めて高い
(KUMADA/耐熱マグネシウム合金よりも43MPa高く、汎用高強度マグネシウム合金の1.7倍以上)
- ③ 低い加工率でキンク強化する
押出比が5~6と低くても高強化
(KUMADA/耐熱マグネシウム合金の約半分の押出比)
- ④ 難燃性である
発火温度が770℃と高く、難燃性を示す
(汎用高強度マグネシウム合金よりも200℃以上高い)
- ⑤ 軽量である
合金添加量が4.6重量%と少なく、比重が1.79g/cm³と比較的小さい
(KUMADA/耐熱マグネシウム合金よりも合金添加量が半減して3.4%軽量)

ダイセルとの第一回包括連携協議会を開催



熊本大学は、令和5年5月8日に締結した株式会社ダイセルとの包括的連携に関する協定書に基づき、令和6年1月に第一回包括連携協議会を開催しました。

包括的連携に関する協定は、令和4年10月に開設した熊本大学産業ナノマテリアル研究所とダイセルとの「ワнтаムエナジー共同研究講座」を基盤として、ダイセルの有する技術“ワнтаムエナジー®”(注1)と熊本大学の有する知識、技術を融合することで、ダイセルが創業以来培ってきたユニークな素材や技術を最大限に活用し、“健康(ヘルスケア)、安全・安心、便利・快適、環境”の4つの事業領域において、まだ世の中にない新たな価値を共創して社会実装に繋がる研究、人材育成、地域連携等について、相互に協力し、双方及び地域社会の発展に寄与することを目的としています。

具体的な研究テーマは下表のとおりで、研究担当者は、本学教員、他大学からの非常勤教員及び株式会社ダイセル、総勢約30名が参画しています。

今回、一回目となる包括連携協議会は、代表者(小川学長・小河社長)が参加し、これまでの進捗を報告、また、課題点の情報共有を行い、今後の対応について協議しました。

連携協議会を定期的に開催することで、更なる連携強化を推進し、研究内容のブラッシュアップと社会実装に繋げるための具体的な施策に関する議論を継続していきます。

なお、共同研究講座設置を契機として、両陣営のトップがお互いのビジョンを共有したことで包括連携協定に発展し、さらに共同で上記の協議会等を運営しているなどの取組が、文部科学省が取りまとめた「研究大学における外

部リソースの更なる獲得に向けた効果的な産学官連携活動等に係る調査分析』『産学官連携の良好事例集』に取り上げられました。

※「産学官連携の良好事例集」は下記ページよりご覧になれます。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00012.html



文部科学省HP

本学では今後も、全国の大学の先んじた事例になるような「組織」対「組織」の産学官連携の強化に努めて参ります。

(注1)“ワнтаムエナジー®”とは、ダイセルが推進する衝撃エネルギーを活用し、“ただ一度だけ、瞬時に、確実に、安全に動力を生み出すことができる技術”を意味しており、モビリティ分野において社会実装されています。今後、本研究講座での研究成果をもとに、医療、ヘルスケア、救命、防災、インフラなど「確実性」や「緊急性」が要求される様々な分野での社会実装を進め、人々が安全で安心に生活できる社会の実現に貢献してまいります。



研究テーマ

1. 共通：爆轟法ナノダイヤモンド合成および基礎物性
2. 健康(ヘルスケア)：次世代投与デバイスの用途探索、スマートセルインダストリー基盤技術探索
3. 安全・安心：セーフティデバイスの基礎検討に関する連携
4. 便利・快適：異材接合へのワнтаムエナジー利用
5. 環境：森林資源(木材)活用のためのワнтаムエナジー利用

「未来創造塾」首長懇談会の開催

熊本大学は、地域課題や企業課題と地域資源を結びつけることで、持続可能な新たなビジネスモデルの創出を目指す人材を育成するため、熊本県内6自治体（八代市、天草市、玉名市、阿蘇地域、菊池市、山鹿市）のほか、和歌山県田辺市及び富山県南砺市とも連携して「未来創造塾」を展開し、これまでに307名の修了生を輩出してきました。

令和6年度は、新たに石川県小松市を加えて、全国9つの自治体等で開講しています。

これまで自治体等の弛まぬ努力によって培われた先駆的な取組のノウハウと成果を共有し、今後の方針に向けた発展的な議論を展開するため、熊本県内6自治体の首長、和歌山県田辺市長及び熊本大学執行部が一堂に会して、令和6年7月22日（月）に「未来創造塾首長懇談会」を開催しました。

懇談会では、持続可能な地方創生の実現に向け、各未来創造塾を運営する自治体等の成果やノウハウなどを共有するため、首長による「未来創造塾」の進捗状況の報告、「未来創造塾」を起点にした施策展開の可能性の検討、



熊本大学の今後の戦略と自治体と大学との連携のあり方について、活発な意見交換が行われました。

参加した首長からは、自治体の最大の課題である若者の流出による人口減少に関して、熊本大学と高校との連携を通じて、残りたい・帰ってきたいと考える若者が増えてきたこと、また、大学を起点に自治体と広域で連携する取組は、熊本大学が初であり、今後、教育への活用に向けた期待したいとの激励の言葉が寄せられ、熊本大学が令和8年度設置予定の共創学環（仮称）に向けて、大きな追い風となりました。



「分裂酵母 Kumadai 株」を使用した吟醸香クラフトビール第2弾を発売

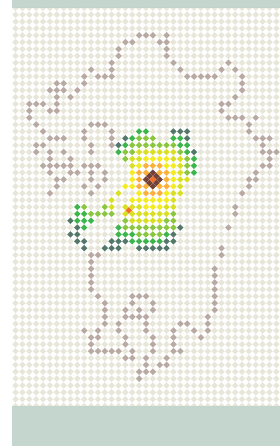
令和5年11月6日に大学院先端科学研究部附属生物環境農学国際研究センターの谷時雄特任教授らの研究グループが新たに開発した「分裂酵母 Kumadai-M23 株」を使用した吟醸香クラフトビールが完成し、熊本大学生協同組合において限定発売しました。

分裂酵母ジャポニカス熊大育種株を使ったビール醸造は、同年4月3日の発売に次ぐもので、前回同様、「株式会社ダイヤモンドブルーイング」が製造し、本学教育学部中学校教員養成課程美術科4年の梅木久美日さんがラベルをデザインしました。

デザインはクラフトビールの泡が弾けるイメージと本学の校旗のカラーである紫紺とうこんを使用した色鮮やかなものとなっています。

前回の「分裂酵母 Kumadai-M42 株」を用いたクラフトビールよりも、吟醸香の主成分であるカブロン酸エチルと酢酸イソamilを高生産する株を使用していることもあり、より丸くふくよかで深みのある上品な味わいとなり、本ビールは好評のうちに完売しました。

分裂酵母ジャポニカスは、一般にビール醸造に用いられる出芽酵母とは違い、均等に分裂していく珍しい酵母です。なお、本ビールは熟成が特徴の一つであり、冷蔵庫での瓶内長期熟成により味わいが変化・向上します。



包括的連携協定を締結

日本貿易振興機構との包括的連携協定を締結

熊本大学は、令和6年2月21日に独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）と包括的連携協定を締結しました。

本協定は、熊本大学と日本貿易振興機構が、学術研究、人材教育、産学連携などにおいて、相互に連携しながら、国際的な展開を推進し、日本国及び地域の発展に寄与することを目的としています。

お互いに協力連携することで、双方の持続的な展開に資するとともに、次世代・地域を担うグローバル人材の育成に寄与するほか、グローバルな産学連携や、グローバルイノベーションを展開し、熊本大学のグローバル化を、より一層進めてまいります。



桜十字グループ及び熊本ヴォルターズと三者包括連携協定を締結

熊本大学は、令和6年4月2日に桜十字グループ及び熊本ヴォルターズと三者包括連携協定を締結しました。

本協定は、熊本における新たなスポーツ文化の創造と社会創生をビジョンとし、学術・医療・スポーツの三者の包括的連携・協働により、バスケットボールをはじめ、スポーツ全般の発展、スポーツ教育の向上及びスポーツの力である楽しみや感動がある“Well-Being”な熊本の地域社会に資することを目的としています。

今後、桜十字グループ及び熊本ヴォルターズと共に、熊本大学をHUBとした、「大学発の新たなスポーツ文化の創造」を目指していきます。



東北大学との包括連携協定を締結

熊本大学は、令和6年3月29日に国立大学法人東北大学と包括連携協定を締結しました。

本協定は、両大学がそれぞれの特色及び教育研究資源を活かし、相互に連携・協力することで、有為な人材の育成や教育の充実、研究の推進に寄与することを目的としています。

当座は、半導体・量子コンピュータにおける教育・研究における連携から始め、新たな社会価値の創造と社会課題の解決に貢献することを目指してまいります。



「Kick-off Symposium on Semiconductors in Kumamoto, 2024」を開催



令和6年7月23日、熊本大学は台湾で半導体分野をリードする主要4国立大学(国立清華大学、国立陽明交通大学、国立成功大学、国立台湾大学)と「Kick-off Symposium on Semiconductors in Kumamoto, 2024」を開催しました。

令和3年11月に台湾の世界的半導体受託製造企業 Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited (TSMC) が日本初の工場を熊本に建設することが決定して以来、熊本県は半導体関連企業を中心とした産業の集積が進み、国内はもとより国際的にも非常に注目されています。熊本大学でも、大学の総力を挙げて、半導体に関する教育や研究の推進、グローバルな組織体制の拡充に取り組んでいます。

このような背景のもと、本シンポジウムは熊本大学及び台湾の主要4国立大学における半導体分野の教育及び研究の取組を紹介し、教育、研究及び産学連携での緊密な連携をスタートさせることを目的に開催され、教育関係者、産業界、自治体などから約120名が参加しました。

小川学長は、開会の挨拶で、「熊本大学は国内外の大学や産業界、台湾の大学や企業と積極的に連携し、半導体産業に貢献する高度な人材の育成や先端的な研究に取り組んでいく」ことを強調しました。続いて、国立清華大学半導体研究院プロセス部の高蔡勝部門長、国立陽明交通大学国際半導体産業学院の曾院介副院長、国立成功大学智慧半導体及永續製造学院の陳貞夙副院長、国立台湾大学光電工程学研究の黄建璋特聘教授及び熊本大学の宇佐川毅理事より、各大学の取組の発表があり、参加者との意見交換が行われました。

発表後のオープンディスカッションでは、共同研究の進め方や企業との連携、学生のインターンシップ推進等について、各大学の知見を共有することで、参加者同士で活発な議論が展開され、今後のさらなる発展と連携のヒントが得られました。シンポジウム終了後には、交流を深めるための懇親会も開催され、参加者間の親睦の機会となりました。

本シンポジウムを契機に、熊本大学は台湾の各大学とのさらなる連携を深め、共同研究の立ち上げや学生交流の促進等に一層、注力しています。



大谷理事によるシンポジウムの概要説明



小川学長による開会の挨拶



高教授(国立清華大学)による発表



曾教授(国立陽明交通大学)による発表



陳教授(国立成功大学)による発表



黄教授(国立台湾大学)による発表



宇佐川理事(熊本大学)による発表



令和6年度 夏季短期海外派遣プログラムを実施



熊本大学は、令和6年度も夏季・短期海外派遣プログラムとして多くのプログラムを企画し、たくさんの学生が海外で貴重な経験を積む機会を提供しました。これらのプログラムは、学生の語学力向上と異文化理解を深めることを目的としており、今年度はヨーロッパ、アジア、北米など複数の地域に学生を派遣しました。それぞれの大学で提供された多彩なプログラムにより、参加学生は充実した時間を過ごすことができました。

具体的な派遣先としては、イギリスのバンガー大学に1名、カナダのアルバータ大学に10名、アメリカのインディアナ大学に9名、フィリピンのデラサール大学に16名を派遣しました。さらに、他にも多くの学生を他の地域や大学へ派遣し、それぞれの文化や言語の中で有意義な経験を積むことができました。

派遣先では、平日に現地語の授業を受講し、実践的な語学力向上を目指しました。授業は少人数制で、学生一人ひとりが深く学べる環境が整備されています。また、語学研修に加え、各大学が企画するシティツアーや学生交流イベントも実施されており、これらのアクティビティを通じて、学生たちは現地文化に触れ、国際的な視野を広げる貴重な機会を得ました。

例えば、バンガー大学に派遣された学生は、ウェールズの歴史的遺産を巡るツアーに参加し、地域文化を体感しました。また、アルバータ大学の学生たちは、カナディアンロッキーの雄大な自然に触れ、貴重な経験を積むことができました。このほか、インディアナ大学では、アメリカの多様な文化や歴史に関する授業と共に、現地学生との交流

を深めることで、アメリカ社会の多様性について学ぶ機会が提供されました。こうした異文化体験は、授業での学びに加えて、学生たちの視野をさらに広げています。

滞在先は、主にホームステイで、学生たちは現地の家庭に滞在しながら、日常的な交流を通じて実践的な語学力を高めることができました。ホストファミリーとの生活を通じて、家庭料理や日常会話を学ぶことができるため、教室では得られない貴重な経験が得られました。また、中には近隣のホテルに滞在するプログラムもあり、学生の安全と快適さが確保された上で実施されています。

これらのプログラムを通じて、参加学生は語学力と異文化理解力を飛躍的に向上させるとともに、グローバルな視点を持つことの重要性を実感しました。今後も本学は、こうした海外派遣プログラムを継続し、より多くの学生が国際経験を積む機会を提供してまいります。



トビタテ!留学JAPAN 奨学金プログラムで4名が採択



熊本大学の学生4名が、奨学金プログラム「トビタテ!留学JAPAN」に採択され、イギリス、オーストラリア、ドイツ、ブラジルなどへの派遣が決定しました。本プログラムは、将来の国際的なリーダー育成を目指しており、書類選考や面接を経て採択者が決定されます。今回、本学から4名が一次審査の書類選考を通過し、さらに全員が二次審査の面接にも合格するという快挙を成し遂げました。

これに伴い、学内では学長、理事、副学長を交えた壮行会が開催され、小川学長からは、今後の挑戦を応援する激励の言葉が学生たちに贈られました。学内外からの温かい支援を受けた学生たちは、これから留学先で語学力

や専門知識を磨き、国際的な視野を広げる予定です。派遣先での学びだけでなく、異文化交流や現地の人々との関わりを通じた学生の成長が期待されます。



熊本大学海外同窓会（ベトナム及びタイ）を設立

熊本大学中国校友会、熊本大学インドネシア同窓会に加え、新たにベトナム及びタイで同窓会が設立されました。令和5年10月に熊本大学ベトナム同窓会の設立記念式典をベトナム・ハノイ市で、令和6年3月に熊本大学タイ同窓会をタイ・コンケン市で開催しました。熊本大学の



熊本大学ベトナム同窓会設立記念式典

元留学生や協定校教員、小川学長をはじめとする本学関係者などが集まり、賑やかに交流を行いました。

今後も本学を卒業・修了した留学生の横断的な交流や親睦を深め、本学のグローバルな人的ネットワークを拡充します。



熊本大学タイ同窓会設立記念式典

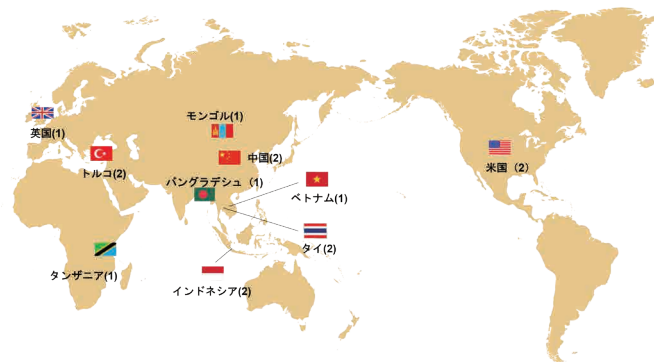
熊本大学リエゾン・プロフェッサー制度を創設

熊本大学の教育・研究におけるグローバル化戦略の一環として、国際ネットワークの構築・強化を目的として、令和5年度に「リエゾン・プロフェッサー制度」を創設しました。リエゾン・プロフェッサーの称号は、熊本大学の教育及び研究の国際化において重要な貢献をした卒業生、元教職員、研究者などに授与されます。令和6年9月現在、10か国15名の方に授与しました。

リエゾン・プロフェッサーの一人、トルコのチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学のトルガ・オズシェン教授は令和6年7月2日に本学を訪問し、対面での委嘱状授与の後、大谷順理事・副学長、伊藤正彦文学部長らと意見交換を行いました。オズシェン教授は卒業生として、引き続きチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学と熊本大学の連携強化とトルコと日本の結びつき促進に積極的に取り組む意向を示しました。



大谷理事(右)によるオズシェン教授への委嘱状授与



熊本大学リエゾン・プロフェッサーの所在国(令和6年9月現在)



TSMCと産学協同連携協定を締結

熊本大学は、令和6年3月に、台湾の世界的半導体受託製造企業 Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited (TSMC) と半導体分野の研究及び人材育成における産学連携に関する協定を締結しました。TSMCが熊本での工場 (Japan Advanced Semiconductor Manufacturing, Inc. (JASMI)) 建設を決めた後に国内の大学と連携協定を結ぶのはこれが初めてとなります。

これに伴い、令和6年4月8日にTSMCとJASMの関係者同席のもと記者説明会を行いました。TSMCの技術研究ディレクターであるマーヴィン・チャン氏とJASMの副工場長である篠原氏が出席しました。説明会では、小川学長及び大谷理事より、協定に基づく熊本大学とTSMC及びJASMほかTSMCの日本における子会社との共同事業の実施に向け、具体的な協議を進めていく旨を説明しました。



左から：篠原副工場長（JASM）、チャン技術研究ディレクター（TSMC）、小川学長、大谷理事・副学長

17 パートナシップで
目標を達成しよう



マンスフィールド財団との連携プロジェクトを実施

熊本大学では、学生及び教職員並びに地域社会へ「リーダーシップの醸成」と「国際的ネットワーク形成」の機会を提供することを目的に、米国のモーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団(マンズフィールド財団)と連携したプロジェクトを実施しています。

マンスフィールド財団は、昭和58年に設立された、アジアと米国との相互理解を深め、協力を促進することを目的としたアメリカを拠点とする非営利財団です。主な活動内容には、次世代リーダーの育成、アジア太平洋地域の政策提言や情報提供が含まれています。また、フェローとして毎年10名ほどの若手米国政府関係者が日本に1年間派遣され、省庁等で研修を行っています。

本プロジェクトの一環として実施する熊本大学ーマンス
フィールド財団連携講義シリーズでは、来日中のフェロー



マンスフィールド・フェローによる講義

や企業関係者を講師としてグローバル社会の今を実務者の視点で紹介するセミナーや講演会を開催し、米国並びに世界の今を知る機会を提供しています。本シリーズは本学学生や大学教職員のみならず、学外からも参加可能としており、大学の枠を超え、産業界、行政、金融機関が一体となった持続的な議論の場を提供しています。

このような取組を通じて、熊本大学のグローバル化の促進、国際的評価とプレゼンス向上を図るとともに、地域のグローバル環境整備にも貢献してまいります。

				Kumamoto University Kumamoto University Lecture Series 特別セミナー
				未来を創るチカラ
				講師 北川 智子 氏 歴史学者、大田出版社
				福岡県大田市の出身。戦国史・江戸幕府史の専門家で、資料収集と執筆、ナゾロジーのブレイク・ポイントシリーズで読者から支持を得た。平家物語や源氏物語など日本古典に造詣が深く、文学・歴史・文化の幅広い知識と豊富な著書を持つ。そのほかにも映画、アフィリエイトなどの活動も行う。
				自身のカリヤについて、また、今の日本の課題や日本の若者に期待することについて、モデレーターとのトークや質疑応答を交えながらお話しいただきます。
				モデレーター 柳原 恒彦 氏 Alegre Capital / ナター、東京三井証券株式会社社長 1986年に福岡で「アート・エデュケーション」を始める。1999年「アート・エデュケーション」を立ち上げる。現在はアート・エデュケーション・インスティテュート（アート・エデュケーション）として、日本各地のアート・エデュケーション・インスティテュートを展開中。現在はアート・エデュケーション・インスティテュートの代表取締役社長を務める。
				日時 2024年1月31日（水）13:00～14:00
				会場 熊本大学多言語文化総合教育センター （熊本大学東門内2-40-1）
				言語 日本語（一部英語も使用します。）
				参加費 無料
				申込 事前申込制 定員50名。定員に達し先着順となります。 こちらよりお申し込みください。（締切：2/8） https://forms.gle/AwXnHrCmLzmg
				講演会「未来を創るチカラ」 （令和6年1月31日）
				Kumamoto University 熊本大学グローバル国際連携推進部 国際機構課 E-mail: life@kumamoto-u.ac.jp Tel: 096-264-2211

能登半島地震における熊本大学病院 DMAT の支援活動

令和6年1月1日16時10分に石川県能登地方でマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生しました。石川県及び厚生労働省からの要請により当院の災害派遣医療チーム(DMAT)が被災地に派遣され支援活動を行いました。チーム派遣(医師1名、看護師2名、診療放射線技師1名)は1月16日に当院を出発し、1月17日～22日まで石川県穴水町保健医療福祉調整本部(穴水町保健センター内)において、避難所支援班の統括業務を担いました。本部の活動ポリシーは「組織の垣根を越えて穴水町の医療関係者を支える活動を!」とされていました。避難所に派遣する医療チームの選定や収集した情報の整理・分析、活動方針の立案、避難所の健康障害を防止する啓発活動など多岐にわたり、保健師や様々な医療チームとの連携・調整の重要性を実感しました。

1月24日に無事当院に帰還しましたが、遠距離で長期間の派遣活動となり、当院の様々な部門からの後方支援(移動手段や宿泊施設の確保など)の重要性を実感しました。さらに、DMATロジスティックチーム隊員の派遣要請に対応するため、隊員1名(歯科医師)を①1月14日～20日、②2月12日～16日の2回、石川県輪島市保健医療福祉調整本部に派遣しました。本部業務(連絡、記録、資料の作成など)を担当し無事帰還しました。

DMATは重傷患者の診療のみならず被災地の医療を支えるために様々な支援活動を行っています。特に避難所や福祉施設の支援活動は被災者の健康障害を防止して被災した医療機関の負担軽減に繋がる重要な活動と認識されています。今回の災害では震度7の大地震、頻回の余震、津波の発生、大規模火災(輪島市)により被害が拡大するとともに、道路の損傷や降雪などの悪天候により被災地へのアクセスが困難となり支援活動が難航しました。今回の経験を今後の災害支援活動に活かしていきたいと考えています。

熊本大学病院
災害医療教育研究センター
Disaster Medical Education and Research Center

熊本大学病院 DMAT の HP もぜひご覧ください。
<https://kumamoto-dmerc.com/dmat>



被災地では
無事故第一で、
被災者に寄り添った
支援活動を行って
参ります。

熊本大学病院
災害医療教育研究センター長
笠岡俊志



DMAT



災害派遣医療チーム(DMAT: Disaster Medical Assistance Team)とは、災害現場にいち早く出動し、災害の超急性期から医療を提供する医療チームです。



北里柴三郎記念イヤー 2024 「北里柴三郎博士とマンズフェルト先生」レリーフ除幕式を挙

令和6年1月11日、北里柴三郎博士と恩師のマンズフェルト先生が描かれたブロンズ製のレリーフが、本院外来診療棟の正面玄関に設置され、除幕式を挙りました。

式典では、熊本大学医学部同窓会熊杏会(ゆうきょうかい)の遠藤文夫会長から「医学部の後進に柴三郎先生の功績を伝えていきたい」と開式の辞が述べられ、馬場秀夫前病院長の挨拶に続き、小川久雄学長や、柴三郎博士のひ孫で北里大学名誉教授の北里英郎先生、レリーフ制作に尽力された二塚信熊杏会顧問から祝辞が述べられました。

レリーフには顕微鏡をのぞき込む北里柴三郎博士と、恩師で古城医学校教師のマンズフェルト先生が描かれており、熊本大学名誉教授で彫刻家の石原昌一先生が制作されました。

これは、7月発行の新千円札の肖像になった小国町出身の細菌学者、北里柴三郎博士の功績を広く知ってもらうために、熊杏会、肥後医育振興会、熊本大学医学部、熊本大学病院を中心に設置された「北里柴三郎顕彰2024年委員会」による顕彰事業「北里柴三郎記念イヤー」の第1弾となるものです。



右：北里柴三郎
左：マンズフェルト



左から馬場秀夫 前病院長、小川久雄 学長、北里英郎 北里大学名誉教授・北里柴三郎記念館館長、遠藤文夫 熊杏会会長

熊本大学病院にアメニティ施設 「くすのきテラス」がオープン

熊本大学病院では、この度、政府が推進する官民連携事業として、本学で初めて民間資金を活用して自ら建設・運営を行うアメニティ施設「くすのきテラス」を設置し、令和6年12月2日から運用を開始いたしました。

「くすのきテラス」という建物名には、病院敷地内に立派に生い茂る県木くすのきのように、広く地域の皆様に愛されるようにとの願いが込められています。

本施設は、地上3階建てで、1階にコンビニエンスストアと調剤薬局、2階にレストラン、ベーカリーショップなどのテナントが出店するとともに、3階は324名を収容可能な会議室や控室を備えており、病院利用者のアメニティサービスの向上、並びに学生・教職員の福利厚生の充実を図り、地域の一般の方も広く利用していただけるような施設となっております。

診療の待ち時間などを有意義に過ごしていただくとともに、学生・教職員においても休憩時間などにリラックスできる空間として、是非とも多くの方にご活用いただきたいと思います。

本施設設置により、県内唯一の特定機能病院である

本院が、高度先進医療を提供する地域の中核的医療機関として、さらなる機能強化に寄与してまいります。



くすのきテラス(外観)

※くすのきテラス3階会議室等の予約の詳細は、以下ホームページからご確認いただけます。ぜひ皆様の教育研究活動の場として幅広くご利用ください。

<https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/etc/topics/20241028/>



心理支援センターを設立

本センターは2024年7月1日に設立されました。医師であるセンター長と副センター長のほか、現在4名の公認心理師（臨床心理士）が所属しており、心理的支援を行うことで当院の医療の質とサービスの向上を目指しています。

患者様・ご家族様に対しては、主に心理検査や心理カウンセリングを介して心理ケアを行っています。また、緩和ケアや虐待等に関するチーム活動や委員会活動を通じた多職種連携、病院職員のメンタルケア、ハラスメントやセルフケアに関する教育・研修などを担当しています。さらに、文学部・教育学部の学生の実習受け入れ、地域の施設・機関を対象とした心理支援、臨床に関する研究なども担っており、大学病院における専門職としての活動に励んでいます。

10月には第1回心理支援センター運営委員会が開催され、心理カウンセリングの自由診療について審議しました。今後、心理支援センターにおける活動の幅が広がり、一人でも多くの皆様に貢献できるよう進めてまいります。



熊本大学病院とバイエル薬品、心臓リハビリテーションの推進へ協定締結

- ・心臓リハビリテーションの重要性を啓発
- ・入院中から退院後まで継続した心臓リハビリテーションを受けやすい体制整備を支援

令和6年8月20日、熊本大学病院（所在地：熊本市、病院長：平井俊範）とバイエル薬品株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：イン・チェン）は、熊本県心臓リハビリテーション推進事業に関する協定を締結し、熊本県民の健康寿命延伸に寄与することを目的に、心臓リハビリテーションについて患者様と医療関係者の関心や知識を向上させるための活動を開始しました。

心臓リハビリテーションは、狭心症、心筋梗塞、末梢動脈疾患、大血管疾患、心不全、心臓手術後といった心臓や血管の病気がある患者様に対して、寿命を延ばしたり生活の質を上げたりすることが確認されている治療法の一つです。心臓リハビリテーションは入院中だけでなく、退院後も外来診療での継続が推奨されていますが、外来での心臓リハビリテーションの実施率は、心筋梗塞後の患者様で4～8%、心不全患者様では7%と、必要な患者様に十分に実施されていない状況です。熊本県も全国レベルと同等か低いことが予測されており、入院中から退院後まで一貫して、心臓リハビリテーションを受けやすい体制整備が急務となっています。

本協定を通じて熊本大学病院とバイエル薬品は、患者様と医療関係者に対して心臓リハビリテーションの重要性についての認識を高め、熊本県における心臓リハビリテーションのさらなる普及を目指します。心臓リハビリテーションの啓発に関するリーフレットや心臓リハビリテーションが受けられる医療機関マップなどを作成し、普及に向けた取組を効果的に推進します。



熊本大学病院における広報活動

熊本大学病院における広報活動として、病院公式ホームページや広報誌、アニュアルレポート（年報）をはじめ、メールマガジンや、Youtubeでの診療科紹介動画、病院公式Xでのリアルタイムの情報発信など、広く一般の方々にも病院からのお知らせやイベント、セミナーの開催情報等を手軽に知っていただく取組を行っています。

また、TVコマーシャルや熊本大学病院の紹介動画、重症患者に対応する病院の取組を紹介したTV番組など、病院をさらに知っていただくためのPR動画を制作しております。

今後更に一般の方々にも分かりやすく、魅力ある情報発信を行っていきます。

熊本大学病院ホームページに動画コンテンツをまとめたページを設置しました。ぜひご覧ください。
https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/kuh_mov.html



熊本大学病院 HP



▶ 熊本大学病院CM動画



▶ 熊本大学病院紹介動画



▶ 重症患者に対応する病院の3つの取り組み

topic

熊本大学病院が発行している定期刊行物のご紹介

本院機関誌を新たに発行した際には、熊本大学病院メールマガジンでお知らせしています。右のQRコードから、ぜひ登録ください。



登録フォーム



熊本大学病院概要

沿革概要や組織図、病院概況、医療機関の承認・指定状況、医療安全管理体制等の熊本大学病院に関する情報を記載しています。



診療のご案内

各診療科・部門の特徴的な取組やスタッフの紹介を記載しています。



アニュアルレポート【年報】

各診療科・部門が取り組んだ、特色のある専門医療、先進的医療をご紹介します。



熊本病院ニュース

平成20年からこれまで35回発行しています。病院に関する様々な情報を掲載しています。

各刊行物については、下記のページでPDF版をご覧になれます。
<https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/book.html>



熊本大学病院 HP

附属学校園

附属特別支援学校

小学部 「さつまいもをそだてよう」(大学との連携)

附属特別支援学校小学部では、令和5年度より、教育学部の協力の下、大江総合運動場内の農場の一区画をお借りして、「さつまいも」の栽培を行っています。

令和6年度も5月29日に苗の植えつけを実施しました。土を触ることに対して得意不得意はあるものの、大学技術部の先生方の支援を仰ぎながら、児童18人で協力して、一苗一苗、丁寧に植え付けることができました。植え付け後には、「やきいもにして食べたい」「スイートポテトが良い」などの話が飛び交うなど、収穫を楽しみにしている様子が伺えました。

収穫は10月中旬の予定です。収穫したものは、家庭へ持ち帰ったり、学級で調理をしたり、給食に活用してもらったりします。

中学部 「地域に学ぼう」(黒髪第4町内自治会との交流)

中学部では、毎年12月に「総合的な学習の時間」の学習として、黒髪第4町内自治会の方々と交流を行っています。令和5年度は、本校グラウンドで、地域の方々に教えていただきながら、グラウンドゴルフを楽しんだり、プレイルームと一緒にボッチャをしたりしました。

一緒に体を動かすことで自然と笑顔や会話、ジェスチャーでのやり取りが生まれ、楽しい時間を共に過ごす



ことができました。コロナ禍には、一度途絶えた交流ですが、今後も継続していきたいと思います。

高等部 美術科の授業を通した“伝福連携”

附属特別支援学校高等部では、昨年度から熊本県伝統工芸館と連携し、伝福連携の授業づくりに取り組んでいます。「伝福連携」は、障害のある人の職域拡大に加え、伝統工芸の後継者確保、技術継承を目的に伝統産業の多い都市で進められているところです。

高等部では昨年度、八代から「い草縄工房」の井上様を講師として、「い草しめ縄づくり」に親子で取り組んだり、玉東の「木葉猿」窯元の見学や木葉猿づくりに取り組んだりして、熊本県の伝統文化に触れる機会としてきました。また、今年度は、水俣の「水俣浮浪雲工房」金刺様を講師として、熊本県伝統工芸・草木染に取り組めます。伝統工芸の草木染について歴史や技法を学ぶとともに、生徒たちと一緒に、校内の樹木(栗のイガ)や給食の野菜の皮などの、日常の中にある原料を集め、草木染にチャレンジしていきます。

この美術科の授業づくりを中心に、伝統工芸で大切な「ゆっくりでも丁寧に作業すること」などの要素と、子どもたちの強みがうまく重なり合っているように、今後も様々な伝統工芸の方々と連携し、取り組みを深めていきます。

附属幼稚園 「幼児の世界」に広がること

附属幼稚園では、子どもたちが「やってみたい」と思う遊びを大切にしています。やってみたいと思わなければ、本当の子どもの学びへつながらないからです。そこで、「やってみたい」幼児の世界を紹介します。

《年長組 きく組・ふじ組》年長組は、9月から竹馬に挑戦しています。「何が難しいですか？」とたずねると「乗ってバランスをとるのが難しかった。」そうです。乗れるまでママができて取り組んでいく年長組。『根気強さ』は、今子どもたちにとっても必要な力だと思います。

《年中組 さくら組・もも組》9月に実施された教育学部2年次実習の様子です。子どもたちは、実習生のお兄さん・お姉さん、先生たちと一緒に創作活動に取り組



一緒につくってね!



ました。年中組は、いろんな人と関わりながら、コミュニケーション力を培っています。お互いに譲ったり、譲られたりして、「折り合いをつけること」を学びます。子どもたちが柔らかな人間関係を築いていけるよう大切に育てています。

《年少組 ばら組》附属幼稚園では、伝統行事をできるだけ保育の中に取り入れています。これは、十五夜の日、年少組が「お月見」の話を聞いてお飾りを見ているところです。ススキ、園内でとれた野菜や果物、月見団子をお供えし、お月様に思いを寄せます。

お月様喜んでくれるかな



附属小学校 150周年の節目を重んじ、変わる附属小

附属小学校は、今年度、学校創立150周年を迎えました。

今年度は、学校にとって歴史的な節目の年となり、150周年を祝う学校行事や同窓会行事が予定されています。PTAや同窓会の皆様にもご協力いただき、9月に校内音楽会「150周年記念たのしい音楽会」を行いました。

今年度は、9月26日(木)に、県立劇場にて盛大に開催しました。本校の子どもたちも、150周年という節目を意識して、練習の成果を発揮し、最高のパフォーマンスを演じました。児童の歌や演奏に加えて、今回は、本校の卒業生であるソプラノ歌手・赤池優さんをお招きし、すばらしい歌声を披露していただきました。子どもたちは、本物の歌声に触れることができ、感動したと思います。正に、



記念すべき音楽会となりました。

また、11月にホームカミングデー及び祝賀会を開催しました。150周年という節目に当たり、子どもたちには、附属小の歴史と伝統を振り返るとともに、主体的に新たな附属小をつくり上げていくという気持ちを高めてもらいたいと思っています。

令和8年度から本格的に始まる国際クラス(仮称)の設置に向けた準備も着々と進んでいます。国際棟(仮称)の建設も進められており、校内の風景も変わりつつあります。国際クラス(仮称)の設置を機に、子どもたちには他者と協力し合い、グローバルな視点で主体的に課題を解決していける資質や能力を身に付けてもらいたいと願っています。今後は、附属中学校や大学との連携を更に深め、国際クラス(仮称)の円滑なスタートに向けて取り組んでまいります。



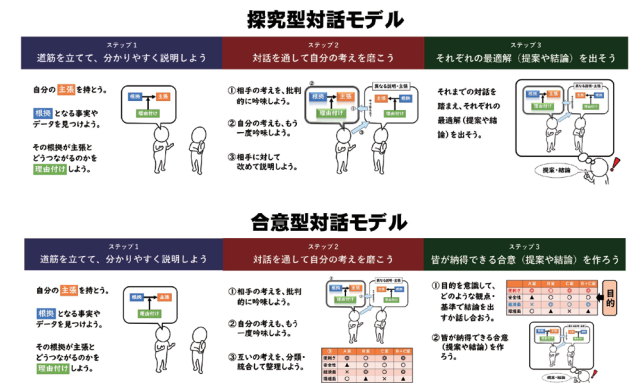
附属中学校 響き合い学習会

附属中学校では年に2回、代表生徒による授業参観と授業研究会(=響き合い学習会)を行っています。今年度は6月10日(月)に3年生国語科の授業を生徒が参観し、授業後に「理想とする対話に近づいていたのか?」について、以下の流れで話し合いを行いました。

- 全体での確認→学習リーダー会会長から話し合いのテーマの確認や話し合いの意義の確認をしました。
- グループ討議→2グループに分かれ、代表生徒の司会のもとでテーマについて考えを深めていました。
- 全体共有→授業を受けた3年生の生徒も含め、それぞれが「理想とする対話」に必要なことを共有しました。最後の総代のまとめでは、普段から教室に掲示してある「対話型論証モデル」や「10の考え方」の有用性について今回の授業を振り返って話をしてくれました。



- グループ討議→2グループに分かれ、代表生徒の司会のもとでテーマについて考えを深めていました。



財務情報
(令和5事業年度)

『日本と世界の伝統薬』

2019年に「薬草パーク構想」のうちのひとつとして設置された薬草ミュージアムには、世界各国の薬草が現物のまま展示されており、人間が自然との調和によって生かされていることを感じることができる。

収蔵先：薬草ミュージアム



熊本大学は、地域の半導体関連の人材育成のニーズ及び地域国際化等の課題解決へ迅速に対応するため、新しい学環・課程の創設をはじめとした教育研究等への新たな投資を行っております。

他方で、近年のエネルギー価格の上昇などの物価高騰の中で、大学を取り巻く状況には非常に厳しいものがあります。このため、本学では、機動的で柔軟な組織運営に必要な財源を確保すべく、支出の見直しのほか、ネーミングライツ等の新たな収入源確保の取組を開始するなど、財務体質の改善に努めております。

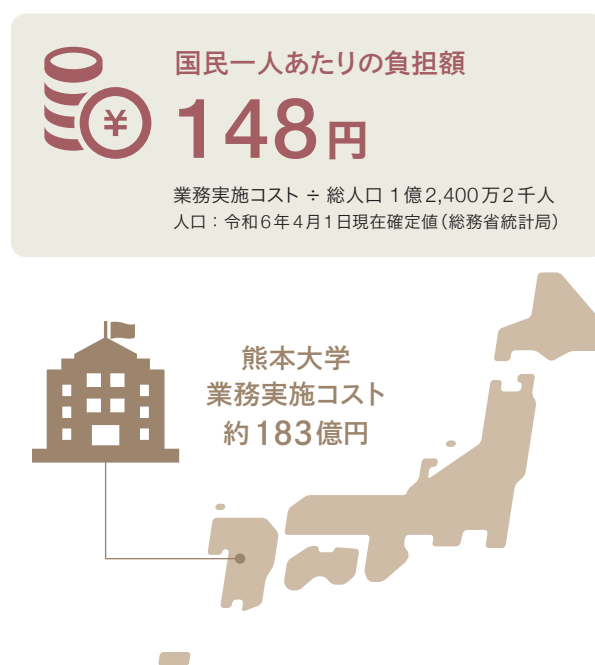
本ページ以降では、令和5事業年度における財務状況の概要や、様々な取組を財務的な視点からご紹介いたします。

国民のみなさまにご負担いただいているコスト

国立大学法人会計基準により、国民の皆様が各国立大学法人の運営に対してどれだけの資金をご負担いただいているのかを明らかにするため、財務諸表の注記事項として「国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト」を作成しています。

国民の皆様には、本注記事項に計上されている本学の業務運営に関して約183億円をご負担いただいています。

日本の人口(約1億2,400万人)により換算した国民1人当たりの負担額は148円となり、**前年度に比べ60円増加**しています(令和4年度国民1人当たりの負担額は88円)。これは、前年度(令和4年度)限りで生じた、会計基準改訂(資産見返負債の廃止)に伴う臨時利益が減少したことによるものです。

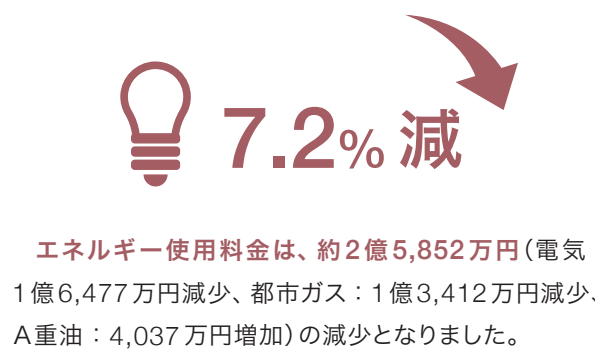


コスト削減に向けて

省エネルギー及び節電対策の実施

電力広域的運営推進機関から公表された電力需給検証報告書等に基づき、6～9月を夏季対策期間、12月～3月を冬季対策期間として「省エネルギー及び節電対策」を実施し、全学を挙げて省エネルギー及び電力使用の削減・平準化に取り組み、多くのエネルギーを使用する事業体として積極的に社会的責任を果たしました。

令和5年度のエネルギー使用量は、前年度に比べ、着実な省エネ対策と病院ESCO事業*の成果により、電気が4.3%削減、都市ガスが47.5%削減、A重油が28.1%増加となり、**エネルギー使用量全体**(エネルギー使用量熱量換算値)**としては、約7.2%の減少**となりました。



※病院ESCO事業
老朽化した設備(空調、給湯及び照明設備など)を省エネ性能に優れた設備に更新し、これらの設備の運転や維持管理等を含む包括的なサービスを提供する事業をESCO事業と呼びます。熊本大学病院ではESCO事業を導入し、令和5年度から省エネ性能に優れた設備が稼働しています。

一般管理費

令和5年度の一般管理費は約14億円です。前年度に比べ、新たな学環・課程の創設等に向けた広告宣伝費等の増加により、**約7,300万円増加**しています。

また、業務費に対する一般管理費の比率(一般管理比率)は2.4%です。**前年度と同等の比率**かつ、同規模大学※(2.4%)とも同等の比率を保っています。

一般管理費の内訳

		(単位:百万円)					
令和5年度	計 1,457	140	127	117	643	99	330
		消耗品費等	水道 光熱費	保守費 修繕費	報酬・委託・手数料	減価償却費	その他
令和4年度	計 1,383	142	152	97	592	90	308

※単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
一般管理比率2.4% = 一般管理費(1,457百万円) ÷ 業務費(60,915百万円)

topic

熊本大学 × ネーミングライツ

本学では、令和5年8月からネーミングライツ事業を開始し、本学の教育研究環境の向上及び地域の活性化に貢献するための取組を推進しております。

ネーミングライツ事業とは？

契約により、本学が命名権等を付与した法人等から得た命名権等の対価を活用し、本学の教育研究環境の向上を図る事業のことです。

●ネーミングライツの種類について

本学のネーミングライツ事業には、次の2種類があります。

施設指定型	法人等に、本学が指定した施設等(講義室その他の室、スペース等を除く。)の命名権を与えるもの。
スペース指定型	法人等に、本学が指定した講義室その他の室、スペース等の命名権を与えるもの。

●現在契約中のネーミングライツ事業一覧(令和6年10月1日現在)

愛称	施設等名	パートナー
ひご未来図書館・HigoBank Learning Commons	附属図書館中央館	株式会社肥後銀行
東京エレクトロン イノベーションプラザ/ TOKYO ELECTRON Innovation Plaza	イノベーションプラザ	東京エレクトロン九州株式会社
VOLTERS GX	渡鹿体育館	熊本バスケットボール株式会社 株式会社桜十字
KDS コミュニティープラザ/ KDS COMMUNITY PLAZA	北地区学生会館A棟	株式会社KDS 熊本ドライビングスクール
TKU×マイスティア カフェテリア/ TKU×meister cafeteria	FORICO	株式会社マイスティア 株式会社テレビ熊本

その他、ネーミングライツ事業に関する規則やパートナー募集に関連する内容を「ネーミングライツパートナーの募集」のウェブサイトで随時発信しておりますので、企業活動の宣伝や、リクルートなどPRツールの1つとして、是非ご検討ください。



ウェブサイト



学生への支援

学生納付金・授業料等免除・奨学金

本学の学生納付金単価は次の表のとおりです。令和5年5月1日現在の学生数は学部7,600人、大学院2,014人です。うち令和5年度の入学人数は学部1,714人、大学院769人です。

令和5年度の学生納付金収益は、総額で約58億円であり、本学の経常収益全体の約9%を占めています。また、入学科や授業料を免除する制度を設けており、令和5年度においては入学科約4,800万円(238人)、授業料約5億3,600万円(2,401人)、**総額約6億円を免除**しました。

令和5年度の学生数(9,614人)に対する前期授業料免除者数(1,192人)の割合は12.4%、後期授業料免除者数(1,209人)の割合は12.6%です。

奨学金制度としては、日本学生支援機構奨学金や地方公共団体奨学金、民間団体奨学金のほか、本学独自の奨学金があります。



学生納付金単価

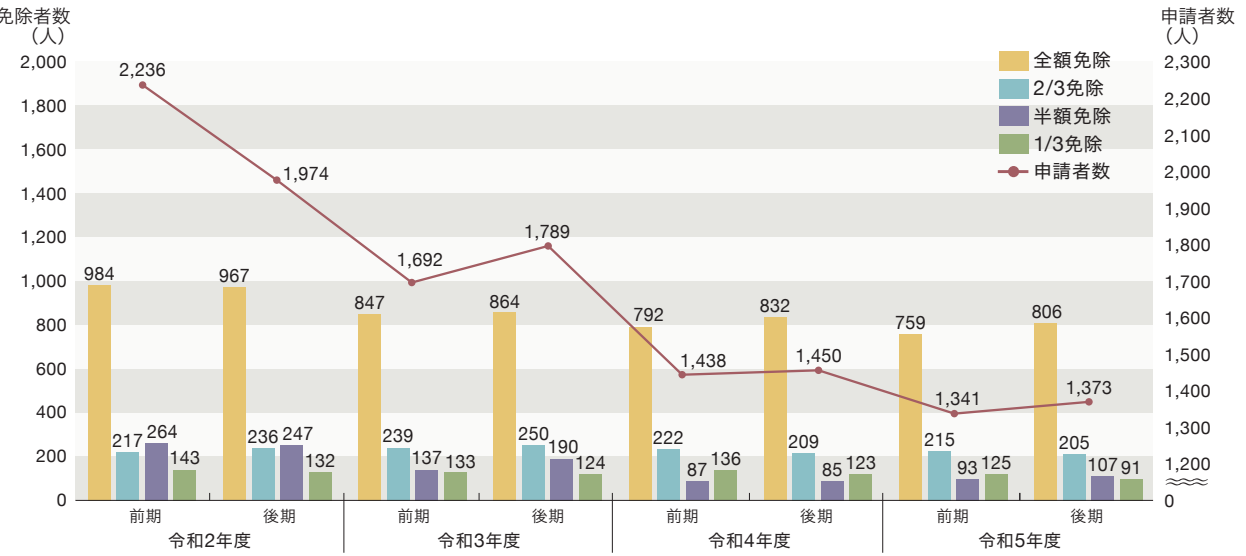
区分	授業料	入学科	検定料
学部	年額 535,800円	282,000円	17,000円
大学院の研究科又は教育部	年額 535,800円	282,000円	30,000円

授業料免除額の推移

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減(前年度比較)
学部	467,798	414,218	367,603	337,152	△30,451
大学院	192,602	174,804	180,564	199,105	18,541
合計	660,400	589,023	548,168	536,257	△11,911

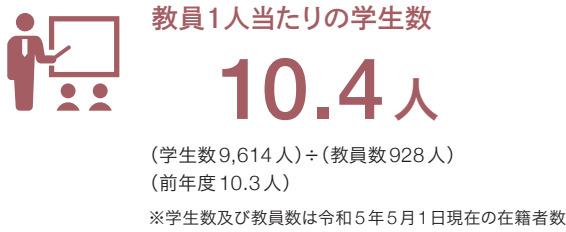
※単位未満を切り捨てているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。

授業料免除者数の推移



教育経費

学生の教育に要する教育経費は約18億円です。学部教育においては、その基礎として幅広い教養を持ち高度な課題解決能力を有する人材を育成し、大学院教育においては、国際社会のリーダーとして活躍できる先導的研究者及び高度専門職業人を養成するという本学の目標を達成するために活用しています。

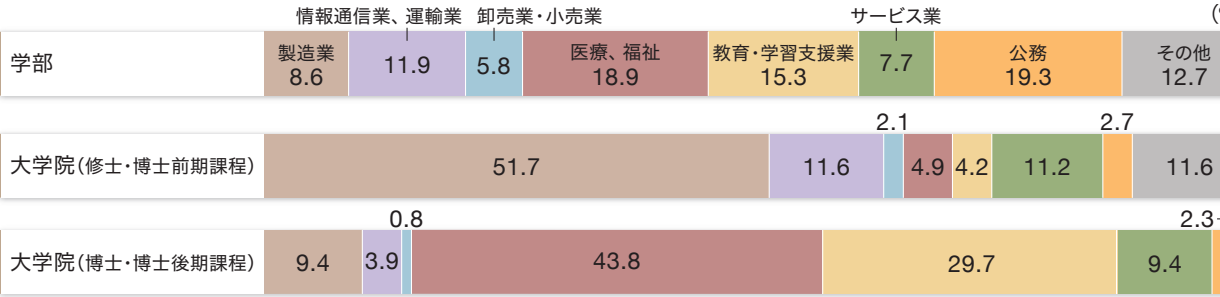


卒業生・修了者の就職状況

令和5年度の卒業生・修了者数と企業等への就職者数は下の表のとおりです。就職先は「令和5年度卒業生・修了者の就職状況(産業別)」にみられるとおり多岐にわたり、幅広い分野で活躍しています。このほか、修士課程や博士課程への進学者等も多数います。

区分	卒業生数 修了者数(人)	進学		就職		
		進学者数(人)	進学率	就職希望者数(人)	就職者数(人)	就職率
学部	1,633	560	34.3%	908	885	97.5%
大学院(修士・博士前期課程)	567	63	11.1%	492	474	96.3%
大学院(博士・博士後期課程)	165	0	0%	135	128	94.8%

令和5年度卒業生・修了者の就職状況(産業別)



図書館関係

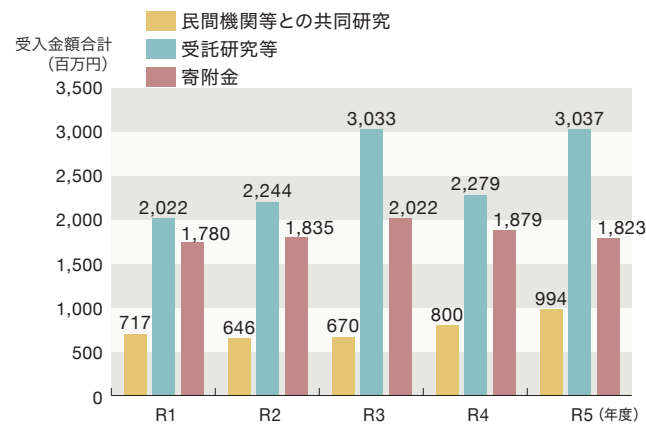
本学の蔵書数は和書・洋書を合わせて約125万冊、資産計上額は約40億円です。また、電子ジャーナル*利用件数は約83万8,000件です。
*電子ジャーナル：電子化された学術雑誌等を閲覧できるサービス。



外部資金の獲得状況等

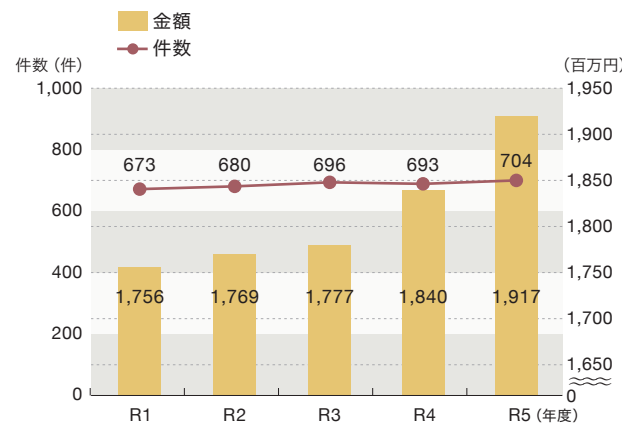
令和元年度～令和5年度の外部資金の受入額及び受入件数の推移は、次のグラフのとおりです。

外部資金の受入額 推移



※寄附講座分を含む。
※熊本地震復興事業基金は含まない。
※令和元年度より「民間機関等との共同研究」に学術コンサルティングを含む。

科学研究費補助金の受入件数及び合計額 推移

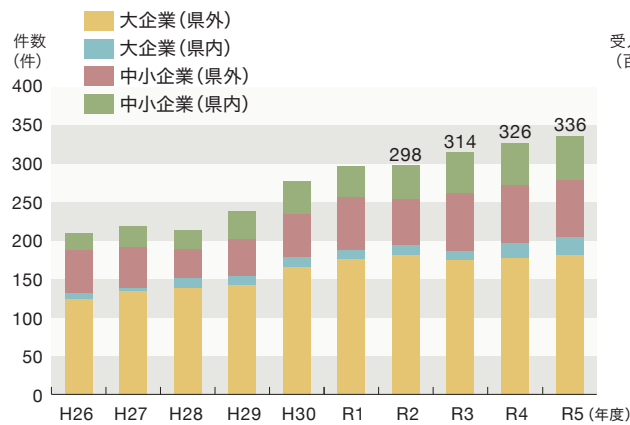


※特別研究員奨励費は含まない。

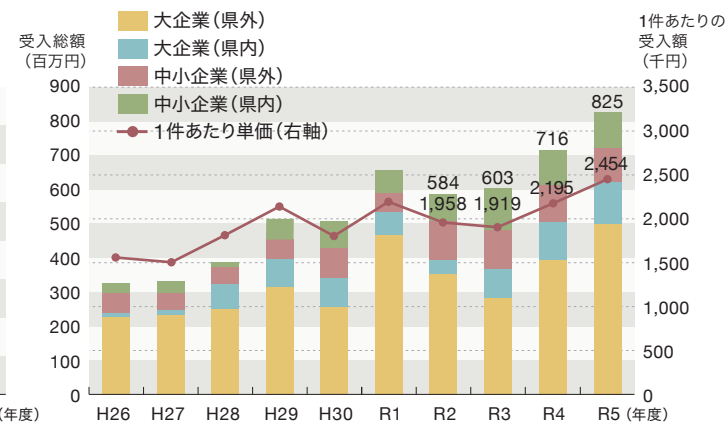
令和5年度の熊本大学と企業との共同研究について

- 令和5年度は、昨年度に引き続いて件数・受入額ともに過去最高(336件、約8億2,500万円)を更新しました。
- 半導体関連企業及び製薬メーカー・医療機器メーカーとの連携が拡大し、受入額の増加につながっています。
- 令和6年度に向けて、包括的連携協定を締結した企業と複数の新規テーマで共同研究を実施する予定であり、今後も積極的に受入れを行って参ります。

件数



受入額



熊本創生推進機構の役割・取組

「熊本創生推進機構」は、熊本における地域のニーズ及び課題に組織的・戦略的に対応する熊本大学の一元的な窓口として、組織的な産学官連携活動及び地域連携活動を推進しています。

イノベーション推進部門が共同研究や産学連携、創出された研究成果の技術移転を推進し、リスクマネジメント部門がコンプライアンス管理、契約の支援を行います。地域連携部門では、地域企業や自治体との連携を推進しています。



熊本創生推進機構の取組紹介

産学連携体制の整備

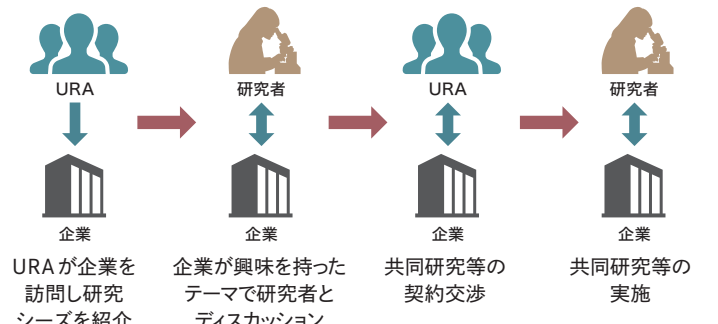
- ・ 共同研究講座制度
- ・ 大学発ベンチャー支援規則
- ・ 学術コンサルティング制度

産学連携推進活動

- ・ シーズ収集活動
- ・ シーズ集システムの整備
- ・ 企業訪問による産学連携提案

企業訪問による産学連携提案【取組例】

URAが企業に研究シーズを紹介し、共同研究等の連携を推進

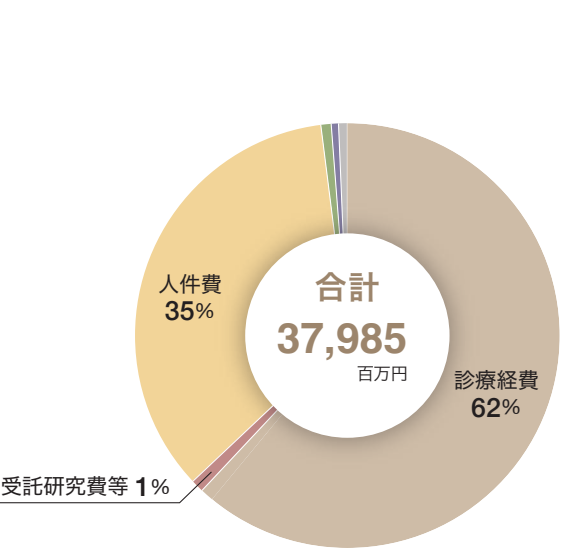


病院の財務内容

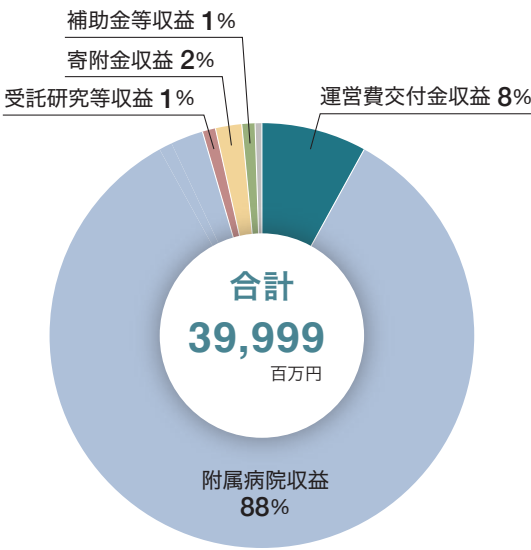
損益計算書

令和5年度の附属病院収益は約352億4,700万円で、病院の経常収益(約399億9,900万円)の約88%を占めています。

経常費用



経常収益



(単位: 百万円)

勘定科目	令和4年度	令和5年度	増△減
業務費	35,915	37,611	1,695
教育経費	95	79	△15
研究経費	266	323	56
診療経費	22,076	23,422	1,346
受託研究費等	410	405	△4
人件費	13,065	13,379	313
一般管理費	281	305	24
その他の費用	64	68	3
経常費用合計	36,261	37,985	1,723
経常利益	3,918	2,014	△1,904

※ 円グラフの勘定科目等の記載は1%未満を省略しています。
単位未満を切り捨てているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「-」で表示しています。

(単位: 百万円)

勘定科目	令和4年度	令和5年度	増△減
運営費交付金収益	2,958	2,953	△5
附属病院収益	34,355	35,247	891
受託研究等収益	508	488	△19
寄附金収益	673	667	△5
施設費収益	-	-	-
補助金等収益	1,562	519	△1,042
その他の収益	122	123	0
経常収益合計	40,179	39,999	△180

損益計算書の主な増減要因

経常費用

令和5年度の経常費用は17億2,300万円(4.8%)増の379億8,500万円となっています。

主な増加要因

「診療経費」

13億4,600万円(6.1%)増の234億2,200万円
継続的な価格交渉による経費節減に努めているものの、医薬品費の増加等によるものです。



経常収益

令和5年度の経常収益は1億8,000万円(0.4%)減の399億9,900万円となっています。

主な増加要因

「附属病院収益」

8億9,100万円(2.6%)増の352億4,700万円
経営指標の病院全体目標及び各診療科の自主目標項目を設定し、目標達成のために経営改善に取り組んでいます。また、毎月開催される運営審議会等において、各種経営指標の状況について報告し、分析データの提供による改善ポイント等を情報共有し、改善に繋げています。



主な減少要因

「補助金等収入」

10億4,200万円(66.7%)減の5億1,900万円
新型コロナウイルス感染症関連の補助金受入額の減少によるものです。

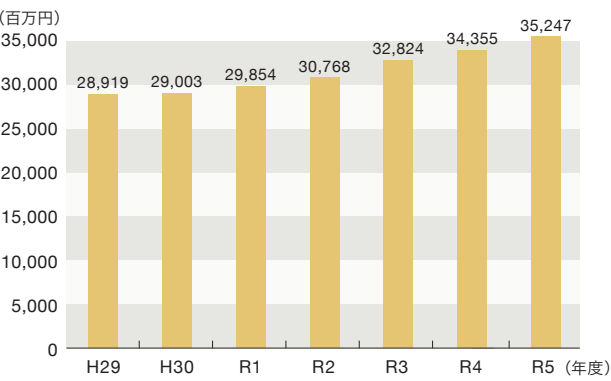


経営情報

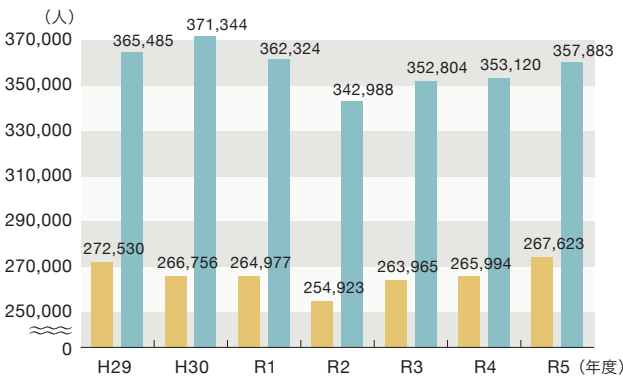
病院における診療行為の実施により得られる附属病院収益は、本学における収益の約55%を占めており、重要な要素となっています。

令和5年度における附属病院収益は、病床稼働の改善取組等による診療収益の増加により、**前年度に比べ約8億9,100万円増加**しています。

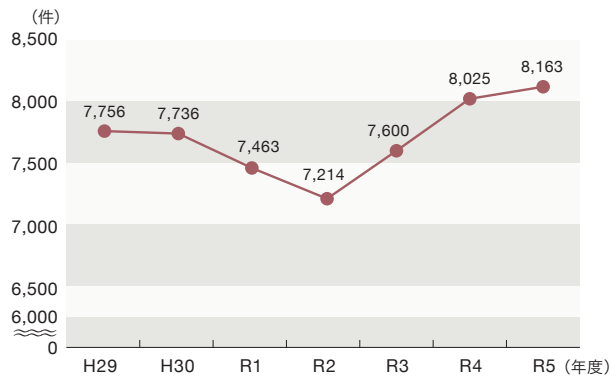
附属病院収益の推移



入院・外来延べ患者数



手術件数



基金の目的等

知の創造、継承、発展を通じて豊かな未来を拓くため、熊本大学の財政基盤の強化を図り、教育、研究、社会貢献等に関する活動の推進及び教育研究環境の整備・充実に資することを目的として、平成19年10月に「熊本大学基金」を設立しました。熊本大学は、皆様の力強いご支援を必要としています。皆様からのご寄附は、全学的な事業や各学部等の支援事業を通じて、熊本大学の教育・研究環境の改善・発展に活用させていただきますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

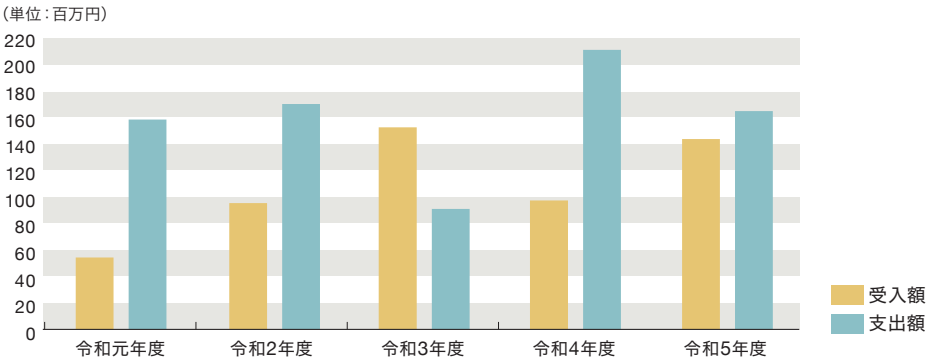
熊本大学基金の年度末保有額と寄附額累計（直近5年）

熊本大学基金

(単位：千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受入額	寄附金収入	51,504	90,397	152,236	98,174	143,085
	利息収入等（※1）	2,079	4,628	0	80	150
支出額（※2）		158,944	170,966	91,045	211,903	164,275
年度末保有額（※3）		509,180	433,239	494,430	389,682	378,728

※1 過年度に部局に配分され、未執行により返還された額を含む。
※2 令和元年度以降は、学部・研究科等教育研究支援事業に配分された全額を含む。
※3 令和元年度以降は、学部・研究科等教育研究支援事業に配分された全額を除く。



寄附額累計

(単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年度末	1,464,149	1,554,547	1,706,783	1,804,958	1,948,043

熊本大学基金の事業

皆様から頂戴したご寄附は、次の事業を通じて、熊本大学の教育・研究環境の改善・発展に活用させていただいております。



課外活動支援

1. 全ての事業（一般資金：使途を特定しない寄附）

デジタル化やグローバル化等の進展により直面する多くの複雑で困難な課題の解決に向けた社会変革の原動力となるため、地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学を目指して取り組んでいる様々な事業（全学的な教育・学生支援、国際共同協力、地域貢献・社会貢献活動及びキャンパス環境整備、キャンパスミュージアム等）に充てられます。

2. 全学事業

永青文庫史資料整備事業	五高記念館周辺環境整備事業
附属図書館支援事業	文書館支援事業
肥後未来共創基金	修学支援事業

3. 学部・研究科等教育研究支援事業

文学部教育研究支援事業	発生医学研究所教育研究支援事業
教育学部教育研究支援事業	病院診療教育研究支援事業
教育学部附属学校園教育支援事業	熊本創生推進機構教育研究推進事業
法学部教育研究支援事業	武夫原教育・研究支援基金
理学部教育研究支援事業	教育学部ましきプロジェクト事業
医学部医学科教育研究支援事業	教育学部附属小学校 150 周年記念事業
医学部保健学科教育研究支援事業	医学教育部教育研究支援事業（柴三郎プログラム）
薬学部教育研究支援事業	HIGO プログラム教育研究支援事業
工学部教育研究支援事業	薬学部キャンパス薬草パーク事業
社会文化科学教育部教育研究支援事業	薬学部熊本ファーマバレー事業
自然科学教育部教育研究支援事業	その他（特定のサークル等への寄附）



五高記念館周辺環境整備事業
写真：熊本大学五高記念館所蔵
撮影：星野雅俊

これまでの活用事例

多くの皆様からご支援を賜り、これまで学生の留学、課外活動の支援や学内建物の整備など、多岐にわたる事業に充当させていただきました。平成28年の熊本地震、新型コロナウイルス感染症、物価高騰等の影響を受け、生活に困窮している学生への経済支援にも活用いたしました。



半導体教育の啓蒙、熊本の半導体産業の発信に取り組むため、子どもたちに半導体に興味を持ってもらう契機となる「半導体ARアプリケーション」と「半導体技術解説動画」を作成しました。



【新庄鷹義基金 学生から寄せられた感謝の声】

- 奨学金によって生活費に必要なアルバイトを休職でき、教員採用試験の勉強に力を注げたので、無事に福岡県の養護教諭の内定をいただきました。奨学金のおかげで養護教諭になる夢を叶えることができました。（教育学部4年）
- 奨学金は主に授業料の支払いに充てました。奨学金のおかげでアルバイトの量を調整でき、学費や諸費用を心配しなくて良かったことがとても大きいと感じています。（保健学科2年）
- 卒業直前に控えた薬剤師国家試験に向け、約4ヶ月間は1日10時間以上の勉強を行っていたため、本奨学金を生活費に充てることでアルバイトの時間を学習時間に充てることができ試験本番では成果を挙げました。立派な薬剤師を目指し精進します。（薬学部6年）

□クラウドファンディング始動！

令和5年度から、教育・研究、社会貢献、国際交流、学生団体等のプロジェクト資金をインターネットで募る「クラウドファンディング」が始動しました。

令和5年度は、4件のプロジェクトの想いに共感し応援いただいた、2,006名の皆様から総額35,868,000円のご支援をいただきました。

今後も教職員や学生等が成し遂げたい夢・活動を発信して参りますので、ご支援よろしくお願いたします。



詳しくは
こちらから



熊本大学へのご寄附の方法

1. 振込

所定の振込用紙に、必要事項（寄附目的・金額・ご氏名・ご住所等）をご記入の上、指定の口座にお振込みください。振込用紙の送付をご希望の方は、「お問い合わせ先」までお申し出ください。

また、熊本大学基金のホームページにて「Webからのお申込み」を選択し、「寄附申込フォーム」から必要事項を入力送信した後で、指定口座にお振込みいただくことも可能です。

2. クレジットカード

熊本大学基金のホームページにて「クレジットカードによる寄附」を選択し、必要事項を入力送信していただくと、クレジットカードによるご寄附が可能です。継続的なご寄附（毎月・希望月に毎年）もお申し込みいただけます。

3. 古本募金

皆様の私有の古本を、熊本大学が業務委託をしている古本取扱業者に送付することによって、その売上金額を熊本大学基金の古本募金として寄附することができます。



日本の生食文化を守りたい！
新アニサキス撃退法の社会実装へご支援を



熊本大学所蔵「松井家文書」
宮本武蔵と22世紀を結ぶプロジェクト



熊本県民の皆さんのために！
心臓リハビリテーションの普及を！



いまこそ熊本で、外国につながる児童生徒の教育を充実させたい

遺贈による寄附制度

「遺贈による寄附制度」は、卒業生・教職員・一般篤志家の方が所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言による寄附）として寄附したいとお考えの方に、その手続きの便宜を図らせていただくための制度です。ご遺志のとおり財産分配を滞りなく実現するために、本学では銀行と協定を結んでおり、遺言に関する手続きを協定銀行がご協力させていただきます。本制度のご利用を希望される場合は、「お問い合わせ先」までご連絡ください。

税法上の優遇措置

- ・個人様からのご寄附をいただいた場合、所得税の優遇措置、住民税の優遇措置（条例で本学が「寄附金税額控除対象法人等」として指定されている場合に限る）を受けることができます。
- ・修学支援事業へのご寄附は、通常の「所得控除」に加え「税額控除」の選択が可能となり、寄附者様においていずれか有利な方をお選びいただけます。
- ・法人様からのご寄附は、全額損金に算入することができます。

ご寄附に対する顕彰

ご寄附いただきました皆様には、感謝状・寄附金領収書をお送りするとともに、ご希望される場合は、大学のホームページや広報誌への御芳名の掲載、銘板の掲示により、ご寄附に対する顕彰をさせていただいております。

1. 紺綬褒章

ご寄附が、個人様500万円以上、法人・団体様1,000万円以上の場合は、国の褒章制度である「紺綬褒章」の対象となります。「お問い合わせ先」までご連絡ください。

2. ホームページ及び熊大広報誌掲載

熊本大学基金のホームページ及び季刊の大学広報誌「熊大通信」にご芳名を掲載させていただきます。なお、1回あたりのご寄附が1万円以上の場合は、寄附領収書とともに「熊大通信」をお送りします。

3. 銘板の掲示

ご寄附が、個人様20万円以上、法人・団体様50万円以上の場合は、ご芳名の銘板を本学の本部棟正面玄関に掲示させていただきます。



熊本大学基金寄附者銘板

お問い合わせ先

熊本大学基金の詳細は熊本大学基金ホームページをご参照ください。ホームページから寄附のお申し込み手続きができます。

TEL096-342-3129
（熊本大学基金・同窓会事業室）

<https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>



パソコンは
こちらから

熊本基金



スマホは
こちらから



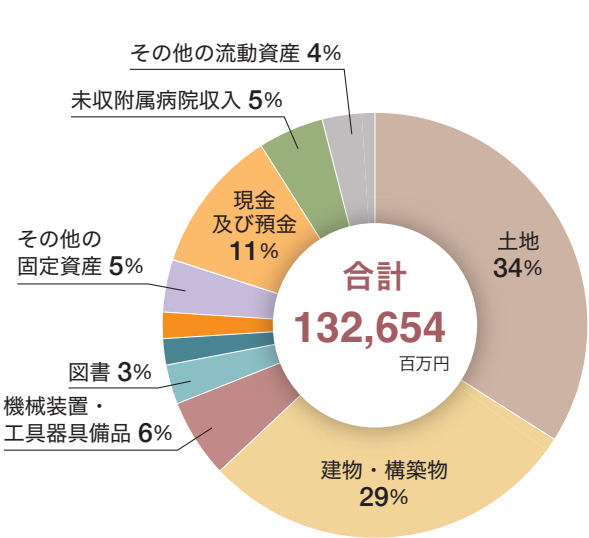
熊本大学基金HP

令和5事業年度 貸借対照表の概要

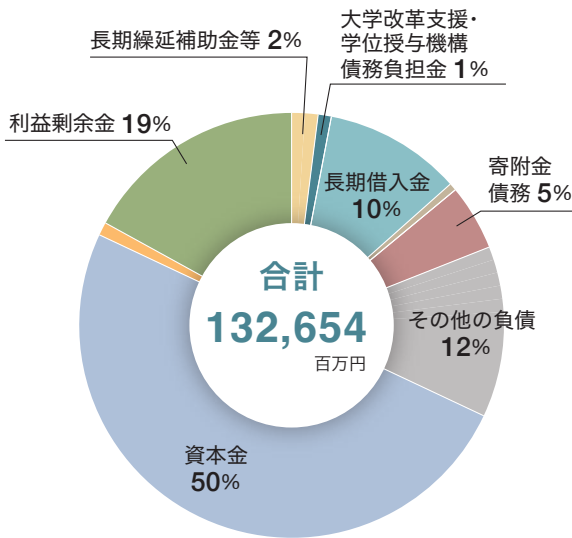
詳細は60～61ページに掲載しています。

期末日(3月31日)における国立大学法人のすべての「資産」、「負債」及び「純資産」を一表に集約し、財政状態を明らかにしたものです。「負債」及び「純資産」は元手資金をどのような方法で集めているかを、また「資産」はどのような形で運用しているかを示します。

資産の部



負債・純資産の部



(単位:百万円)

勘定科目	令和4年度	令和5年度	増△減
資産の部			
土地	45,496	45,490	△6
建物・構築物	40,950	38,816	△2,134
機械装置・工具器具備品	7,443	7,996	552
図書	4,024	4,033	8
その他の有形固定資産	234	1,461	1,227
無形固定資産	309	2,221	1,912
その他の固定資産	5,209	6,164	955
現金及び預金	15,995	14,762	△1,232
未収附属病院収入	6,721	6,456	△264
その他の流動資産	3,352	5,249	1,897
資産合計	129,737	132,654	2,916

(単位:百万円)

勘定科目	令和4年度	令和5年度	増△減
負債の部			
長期繰延補助金等	2,442	2,784	341
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,939	1,332	△606
長期借入金	14,937	12,995	△1,941
運営費交付金債務	449	276	△173
寄附金債務	6,172	6,265	93
その他の負債	10,892	16,332	5,440
負債合計	36,833	39,986	3,153
純資産の部			
資本金	66,912	66,912	—
資本剰余金	586	851	264
利益剰余金	25,405	24,904	△501
純資産合計	92,904	92,667	△236
負債・純資産合計	129,737	132,654	2,916

※ 円グラフの勘定科目等の記載は1%未満を省略しています。
単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「—」で表示しています。

貸借対照表の主な増減要因

資産の部

令和5年度末現在の資産合計は前年度比29億1,600万円(2.2%)増の1,326億5,400万円となっています。

主な増加要因

「無形固定資産」
19億1,200万円(618.6%)増の22億2,100万円
ソフトウェアの新規取得によるものです。

「その他の流動資産」
18億8,000万円(56.5%)増の52億4,900万円
有価証券(1年未満満期)の増加によるものです。

主な減少要因

「建物・構築物」
21億3,400万円(5.2%)減の388億1,600万円
減価償却の進行によるものです。

負債の部

令和5年度末現在の負債合計は31億5,300万円(8.6%)増の399億8,600万円となっています。

主な増加要因

「その他の負債」
54億4,000万円(49.9%)増の163億3,200万円
リース資産の取得によるものです。

主な減少要因

「大学改革支援・学位授与機構債務負担金」
6億600万円(31.3%)減の13億3,200万円
返済の進行によるものです。

「長期借入金」
19億4,100万円(13.0%)減の129億9,500万円
返済の進行によるものです。

純資産の部

令和5年度末現在の純資産合計は2億3,600万円(0.3%)減の926億6,700万円となっています。

主な増加要因

「資本剰余金」
2億6,400万円(45.2%)増の8億5,100万円
前中期目標期間繰越積立金による資産の増加によるものです。

主な減少要因

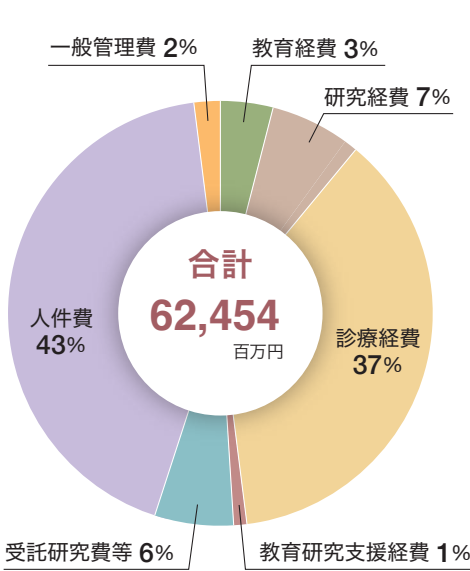
「利益剰余金」
5億100万円(2.0%)減の249億400万円
当期総利益の減少によるものです。

令和5事業年度 損益計算書の概要

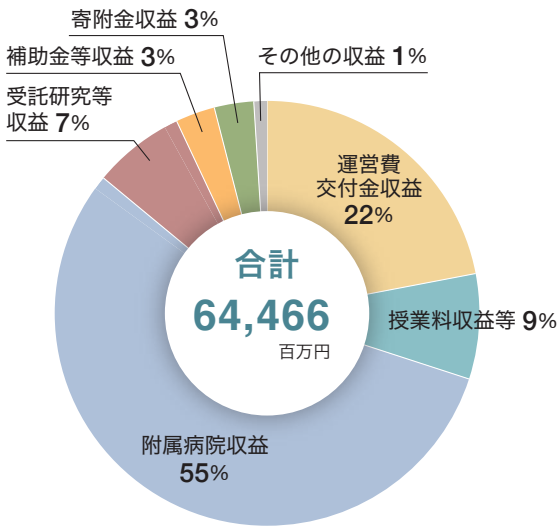
詳細は62ページに掲載しています。

一会計期間(4月1日～3月31日)の国立大学法人における教育、研究、診療などの業務を実施するために要した費用と、これに対応するすべての収益を示すもので、運営状況を明らかにするものです。収益と費用の差が利益になります。

経常費用



経常収益



(単位：百万円)

勘定科目	令和4年度	令和5年度	増△減
資産の部			
業務費	58,633	60,915	2,281
教育経費	1,928	1,834	△94
研究経費	3,788	4,088	300
診療経費	22,076	23,422	1,346
教育研究支援経費	539	538	△1
受託研究費等	3,834	4,209	374
人件費	26,465	26,821	355
一般管理費	1,383	1,457	73
その他の費用	91	80	△10
経常費用合計	60,108	62,454	2,345
経常利益	3,671	2,012	△1,659
臨時損失	25	1,364	1,339
当期純利益	13,795	649	△13,145
当期総利益	14,303	917	△13,386

※ 円グラフの勘定科目等の記載は1%未満を省略しています。
単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「-」で表示しています。

(単位：百万円)

勘定科目	令和4年度	令和5年度	増△減
運営費交付金収益	13,820	14,029	208
授業料収益等	5,777	5,858	81
附属病院収益	34,355	35,247	891
受託研究等収益	3,925	4,423	498
補助金等収益	2,776	1,874	△901
寄附金収益	1,987	1,975	△11
その他の収益	1,138	1,057	△81
経常収益合計	63,780	64,466	686
臨時利益	10,148	1	△10,147
目的積立金取崩額	-	-	-
前中期目標期間繰越積立金取崩額	508	267	△240

損益計算書の主な増減要因

経常費用

令和5年度の経常費用は23億4,500万円(3.9%)増の624億5,400万円となっています。

主な増加要因

「診療経費」
13億4,600万円(6.1%)増の234億2,200万円
医薬品費、診療材料費の増加によるものです。

「受託研究費等」
3億7,400万円(8.9%)増の42億900万円
受託研究、共同研究受入額の増加に伴う費用の増加によるものです。

主な減少要因

「教育経費」
9,400万円(4.9%)減の18億3,400万円
消耗品費・備品費の減少によるものです。

臨時損失、臨時利益

令和5年度の臨時損失は、13億3,900万円(5296.3%)増の13億6,400万円となっています。これは、建物の耐用年数誤りに伴う前期損益修正損を計上したことによるものです。

令和5年度の臨時利益は、101億4,700万円(99.9%)減の100万円となっています。これは、会計基準の改訂に伴う資産見返負債の廃止によって、令和4年度限りで生じた臨時利益の減少分となります。

経常収益

令和5年度の経常収益は6億8,600万円(1.1%)増の644億6,600万円となっています。

主な増加要因

「附属病院収益」
8億9,100万円(2.6%)増の352億4,700万円
病床稼働の改善取組等による診療収益の増加によるものです。

「受託研究等収益」
4億9,800万円(12.7%)増の44億2,300万円
受託研究、共同研究受入額の増加によるものです。

主な減少要因

「補助金収益」
9億100万円(32.5%)減の18億7,400万円
新型コロナウイルス感染症関連の補助金受入額の減少によるものです。

当期総利益

令和5年度の当期総利益は、133億8,600万円(93.5%)減の9億1,700万円となっています。

令和4年度と比べ大きく減少していますが、これは、会計基準の改訂により、令和4年度限りで生じた臨時利益の減少が主な要因です。

貸借対照表

(単位：百万円)

勘定科目	第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
	(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
資産の部					
固定資産	116,784	105,511	103,668	106,184	2,515
土地	45,496	45,496	45,496	45,496	-
減損損失累計額	-	-	-	△6	△6
建物	86,377	90,501	91,114	92,567	1,453
減価償却累計額	△38,994	△50,321	△52,519	△56,068	△3,548
減損損失累計額	△881	△0	△0	△0	
構築物	4,392	5,449	5,651	5,831	179
減価償却累計額	△2,429	△3,083	△3,295	△3,513	△218
減損損失累計額	-	-	-	-	-
機械装置	426	323	323	324	1
減価償却累計額	△179	△256	△264	△271	△7
工具器具備品	47,099	52,240	53,032	54,398	1,366
減価償却累計額	△31,111	△44,229	△45,647	△46,456	△808
図書	3,984	4,012	4,024	4,033	8
美術品・収蔵品	135	150	158	166	7
船舶	101	101	101	101	△0
減価償却累計額	△43	△101	△101	△101	0
車両運搬具	100	107	106	101	△4
減価償却累計額	△71	△92	△95	△96	△0
建設仮勘定	664	46	65	1,289	1,224
特許権	93	106	89	91	1
借地権	83	44	44	44	-
商標権	0	0	0	0	-
ソフトウェア	1,381	86	48	1,956	1,907
特許権等仮勘定	147	120	126	129	2
投資有価証券	-	3,399	3,899	4,199	300
減価償却引当特定資産	-	-	-	853	853
長期前払費用	-	2	0	-	△0
長期性預金	-	1,400	1,300	1,100	△200
差入保証金	5	4	4	4	-
その他の固定資産	6	3	5	7	1
流動資産	25,078	24,208	26,068	26,469	401
現金及び預金	18,777	12,696	15,995	14,762	△1,232
未収学生納付金収入	102	611	620	637	17
徴収不能引当金	△3	△0	△0	△0	△0
未収附属病院収入	4,993	5,979	6,726	6,464	△262
徴収不能引当金	△5	△5	△5	△7	△1
未収受託研究等収入	561	511	583	602	18
その他未収入金	187	856	1,352	319	△1,033
徴収不能引当金	△1	-	-	-	-
有価証券	-	3,100	300	3,200	2,900
たな卸資産	9	14	17	17	0
医薬品及び診療材料	433	424	437	440	2
立替金	6	0	0	0	0
前払費用	4	13	34	7	△26
未収収益	11	6	5	7	1
未収消費税等	-	-	-	17	17
資産合計	141,863	129,720	129,737	132,654	2,916

(単位：百万円)

勘定科目	第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
	(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
負債の部					
固定負債	48,251	30,982	18,840	19,647	807
資産見返負債	19,433	12,000	-	-	-
長期繰延補助金等	-	-	2,442	2,784	341
長期前受共同研究費	-	-	-	-	-
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	5,336	1,939	1,332	765	△566
長期借入金	20,263	14,937	12,995	11,109	△1,886
引当金	798	1,564	1,547	1,551	4
資産除去債務	39	34	35	38	3
長期未払金	90	-	-	-	-
長期リース債務	1,988	507	486	3,397	2,910
長期PFI債務	300	-	-	-	-
流動負債	20,575	18,635	17,993	20,338	2,345
運営費交付金債務	88	-	449	276	△173
預り施設費	-	-	-	565	565
預り補助金等	-	0	3	237	234
寄附金債務	5,050	6,062	6,172	6,265	93
前受受託研究費等	711	1,042	990	1,303	312
前受金	50	309	264	438	174
科学研究費助成事業等預り金	350	570	588	564	△23
預り金	68	89	89	853	763
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	876	608	606	566	△40
一年以内返済予定長期借入金	1,527	2,017	1,941	1,886	△55
未払金	10,483	6,966	6,242	6,353	111
未払費用	56	32	28	51	22
未払消費税等	11	52	3	-	△3
引当金	293	358	372	407	35
短期リース債務	575	524	239	569	329
短期PFI債務	429	-	-	-	-
仮受金	0	-	0	0	△0
負債合計	68,826	49,618	36,833	39,986	3,153
純資産の部					
資本金	66,912	66,912	66,912	66,912	-
政府出資金	66,912	66,912	66,912	66,912	-
資本剰余金	1,196	1,241	586	851	264
資本剰余金	28,473	33,745	34,476	35,963	1,487
減価償却相当累計額(△)	△26,582	△32,499	△33,886	△35,102	△1,215
減損損失相当累計額(△)	△690	-	-	△6	△6
利息費用相当累計額(△)	△3	△3	△4	△4	△0
利益剰余金	4,927	11,947	25,405	24,904	△501
前中期目標期間繰越積立金	3,944	3,944	11,102	9,683	△1,418
教育研究環境等整備積立金	-	571	-	2,506	2,506
積立金	-	3,386	-	11,797	11,797
当期末処分利益	983	4,044	14,303	917	△13,386
純資産合計	73,036	80,101	92,904	92,667	△236
負債純資産合計	141,863	129,720	129,737	132,654	2,916

※ 単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「－」で表示しています。

損益計算書

(単位：百万円)

勘定科目	第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
	(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
経常費用					
業務費	54,199	58,924	58,633	60,915	2,281
教育経費	2,069	2,055	1,928	1,834	△94
研究経費	3,686	4,320	3,788	4,088	300
診療経費	17,730	21,410	22,076	23,422	1,346
教育研究支援経費	498	629	539	538	△1
受託研究費等	3,321	4,060	3,834	4,209	374
人件費	26,892	26,447	26,465	26,821	355
一般管理費	1,104	1,331	1,383	1,457	73
財務費用	298	89	68	73	5
雑損	9	15	23	6	△16
経常費用合計	55,613	60,360	60,108	62,454	2,345
経常収益					
運営費交付金収益	14,642	13,884	13,820	14,029	208
授業料収益	4,600	4,540	4,943	4,993	50
公開講座等収益	7	11	9	12	2
入学金収益	719	715	720	743	23
検定料収益	127	112	113	121	7
附属病院収益	27,372	32,824	34,355	35,247	891
受託研究等収益	3,320	4,223	3,925	4,423	498
施設費収益	44	134	184	255	70
補助金等収益	1,143	2,585	2,776	1,874	△901
寄附金収益	1,412	1,615	1,987	1,975	△11
資産見返負債戻入	1,907	2,300	-	-	-
財務収益	2	15	17	24	7
雑益	1,294	854	926	765	△161
経常収益合計	56,597	63,818	63,780	64,466	686
経常利益(又は経常損失)	984	3,457	3,671	2,012	△1,659
臨時損失	1,944	3,024	25	1,364	1,339
臨時利益	1,680	3,357	10,148	1	△10,147
当期純利益	720	3,790	13,795	649	△13,145
目的積立金取崩額	262	254	508	267	△240
当期総利益	983	4,044	14,303	917	△13,386

※ 単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「－」で表示しています。

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

勘定科目	第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
	(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
I 業務活動によるキャッシュ・フロー					
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△21,696	△24,881	△26,252	△27,201	△949
人件費支出	△27,106	△27,853	△27,082	△27,984	△902
その他の業務支出	△1,191	△1,121	△1,381	△1,406	△25
運営費交付金収入	23,310	14,043	14,270	13,856	△414
授業料収入	4,626	4,374	4,391	4,457	65
入学金収入	692	639	662	678	16
検定料収入	125	112	113	121	7
附属病院収入	27,282	32,713	33,604	35,502	1,898
受託研究等収入	3,563	4,359	3,801	4,718	917
補助金等収入	1,139	2,922	2,869	3,498	628
寄附金収入	2,427	2,018	1,879	1,822	△57
その他の収入	1,329	891	898	942	43
科学研究費助成事業等預り金の純増加(減少)額	67	109	17	△23	△40
小計	14,573	8,330	7,792	8,979	1,187
国庫納付金の支払額	△12	-	△1	-	1
合計	14,560	8,330	7,791	8,979	1,188
II 投資活動によるキャッシュ・フロー					
有価証券の取得による支出	△3,000	△4,300	△800	△3,500	△2,700
有価証券の償還による収入	3,000	4,600	3,100	300	△2,800
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△11,323	△5,770	△4,303	△4,758	△454
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	71	0	0	0	△0
保証金の差入による収入	-	△3	-	-	-
保証金の払戻による収入	-	0	-	-	-
減価償却引当特定資産の繰入による支出	-	-	-	△853	△853
投資その他の資産の取得による支出	-	-	-	-	-
その他の投資収入	-	-	-	-	-
施設費による収入	2,930	1,332	614	1,387	773
大学改革支援・学位授与機構への納付による支出	△35	-	-	-	-
定期預金への預入による支出	△20,000	△1,000	△3,400	△300	3,100
定期預金の解約による収入	16,000	1,500	1,200	3,500	2,300
小計	△12,356	△3,641	△3,589	△4,224	△635
利息及び配当金の受取額	△8	15	17	22	5
合計	△12,365	△3,625	△3,571	△4,201	△629
III 財務活動によるキャッシュ・フロー					
長期借入れによる収入	1,431	290	-	-	-
長期借入金の返済による支出	△1,630	△1,989	△2,017	△1,941	75
リース債務の返済による支出	△463	△617	△527	△387	139
割賦債務の返済による支出	△34	△6	-	-	-
PFI債務の返済による支出	△426	-	-	-	-
大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出	△904	△620	△608	△606	1
小計	△2,028	△2,943	△3,153	△2,936	216
利息の支払額	△300	△89	△67	△73	△6
合計	△2,328	△3,032	△3,221	△3,010	210
IV 資金増加(減少)額	△133	1,672	998	1,767	769
V 資金期首残高	13,811	9,824	11,496	12,495	998
VI 資金期末残高	13,677	11,496	12,495	14,262	1,767

※ 単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「－」で表示しています。

キャッシュフロー計算書は、一会計期間(4月1日～3月31日)における「お金(キャッシュ)」の「流れ(フロー)」に着目し、これを「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の3つの区分で表示するものです。
費用、収益、利益、損失の概念から離れて、借入や出資の追加等も含めて、現金の受払という事実の全てを認識・測定します。

国立大学法人等業務実施コスト計算書

(単位：百万円)

勘定科目	第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
	(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
I 業務費用					
(1) 損益計算書上の費用	57,557	63,385	60,134	63,819	3,684
業務費	54,199	58,924	58,633	60,915	2,281
一般管理費	1,104	1,331	1,383	1,457	73
財務費用	298	89	68	73	5
雑損	9	15	23	6	△16
臨時損失	1,944	3,024	25	1,364	1,339
(2) (控除) 自己収入等	△39,117	△45,139	△50,641	△47,741	2,900
授業料収益	△4,600	△4,540	△4,943	△4,993	△50
公開講座等収益	△7	△11	△9	△12	△2
入学金収益	△719	△715	△720	△743	△23
検定料収益	△127	△112	△113	△121	△7
附属病院収益	△27,372	△32,824	△34,355	△35,247	△891
受託研究等収益	△3,320	△4,223	△3,925	△4,423	△498
寄附金収益	△1,412	△1,615	△1,764	△1,752	12
資産見返運営費交付金等戻入	△233	△303	-	-	-
資産見返寄附金戻入	△329	△318	-	-	-
建設仮勘定見返運営費交付金等戻入	△0	△5	-	-	-
建設仮勘定見返寄附金戻入	-	-	-	-	-
財務収益	△2	△15	△17	△24	△7
雑益	△833	△414	△383	△422	△38
臨時利益	△156	△38	△4,408	△0	4,408
業務費用合計	18,439	18,245	9,492	16,077	6,585
II 損益外減価償却相当額	1,749	1,507	1,420	1,444	23
III 損益外減損損失等相当額	731	0	0	12	11
IV 損益外利息費用相当額	0	0	0	0	0
V 損益外除売却差額相当額	1	0	0	0	△0
VI 引当外賞与増加見積額	31	△35	35	35	0
VII 引当外退職給付増加見積額	△280	220	△155	318	474
VIII 機会費用	54	143	208	463	255
国又は地方公共団体の無償又は減額された 使用料による貸借取引の機会費用	10	5	3	4	0
政府出資の機会費用	43	138	204	459	254
IX 国立大学法人等業務実施コスト	20,727	20,082	11,000	18,352	7,351

※ 単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「－」で表示しています。

国立大学法人等業務実施コスト計算書は、一会計期間(4月1日～3月31日)の国民負担額(税金等により国民が負担するコスト)を集約するものです。
企業会計にはないもので、損益計算書にはない「国から継承した土地や建物などを利用する場合の本来負担すべき費用(機会費用)」などが含まれますが、自己収入などは対象となりません。

用語解説

費用について

■業務費

国立大学法人の業務に要した費用です。教育経費、研究経費、診療経費、教育研究支援経費、受託研究費、共同研究費、受託事業費、人件費(役員人件費、教員人件費、職員人件費)が業務費にあたります。

■一般管理費

国立大学法人全体の管理運営を行うために要した経費です。役員会等のために要する経費や、教職員の福利厚生に要する経費、学生募集に要する経費などが該当します。また、その他の区分に該当しない経費も一般管理費に分類されます。

収入について

■運営費交付金

各国立大学法人が継続的・安定的に教育研究活動を実施するために必要な経費に対して行われる財源措置です。収入と支出の見積差額が運営費交付金として国から交付されます。運営費交付金は使途が特定されていないため、「渡し切りの交付金」の性格を持ちます。

■科学研究費補助金

人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成が行われます。

決算報告書

(単位：百万円)

勘定科目	第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
	(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
収入					
運営費交付金	23,222	14,062	13,820	14,029	208
施設整備費補助金	2,892	1,294	595	1,368	773
補助金等収入	1,197	3,113	3,367	2,218	△1,149
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	38	38	19	19	-
自己収入	34,784	38,994	39,411	41,477	2,066
授業料、入学料及び検定料収入	6,126	5,399	5,395	5,517	121
附属病院収入	27,282	32,713	33,604	35,502	1,898
財産処分収入	71	-	-	-	-
雑収入	1,303	881	411	457	46
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	5,884	6,360	6,276	6,880	604
産学連携等研究収入	3,456	4,350	3,873	4,737	863
寄附金収入	2,427	2,010	1,859	1,800	△58
その他	-	-	543	342	△200
引当金取崩	29	24	36	57	20
長期借入金収入	1,431	290	-	-	-
目的積立金取崩	262	1,500	845	1,483	638
計	69,741	65,679	64,372	67,535	3,162
支出					
業務費	54,931	49,283	49,270	52,943	3,673
教育研究経費	27,698	17,902	17,800	17,953	153
診療経費	27,233	31,380	31,469	34,990	3,520
施設整備費	4,361	1,623	614	1,387	773
補助金等	1,197	2,725	2,992	1,864	△1,127
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	5,149	5,949	6,163	6,662	499
産学連携等研究費	3,303	4,297	3,870	4,612	741
寄附金事業費	1,845	1,652	1,749	1,707	△42
その他	-	-	543	342	△200
長期借入金償還金	2,786	2,675	2,679	2,590	△89
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	35	-	-	-	-
計	68,462	62,257	61,720	65,449	3,729
収入－支出	1,278	3,422	2,652	2,085	△566

※ 単位未満を切り捨てしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
単位未満の金額がある場合は「0」で表示し、金額がない場合は「－」で表示しています。

決算報告書は、予算の執行状況を明らかにするものであり、国の会計認識基準に準じて作成されるものです。
決算報告書と損益計算書は、作成基準が異なるため、数値は必ずしも一致しません。

受託研究・共同研究・受託事業について

■受託研究

国立大学法人において、外部からの委託を受けて法人の業務として行う研究です。これに要する経費は、原則として委託者が負担します。

■共同研究

- ①国立大学法人において、民間等の外部機関から研究者及び研究経費等を受け入れ、当該法人の教員が外部機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究です。
- ②国立大学法人及び民間等の外部機関において、共通の課題に対して分担して行う研究で、当該法人において、外部機関から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れるものです。

■受託事業

国立大学法人において、外部からの委託を受けて法人の業務として行う諸活動(受託研究を除く)を指します。これに要する経費は、原則として委託者が負担します。

国立大学法人の財務分析に用いる基礎的な財務指標

		第3期中期目標期間		第4期中期目標期間		増△減 (前年比較)
		(初年度) H28年度	(最終年度) R3年度	(初年度) R4年度	(二年目) R5年度	
運営費交付金依存度	運営費交付金収益÷経常収益	低い値ほど良い				
		25.9%	21.8%	21.7%	21.8%	0.1%
	経常収益に対する運営費交付金収益の割合を示す指標です。 比率が低いほど運営費交付金以外の収益が多いことを意味します。					
流動比率	流動資産÷流動負債	高い値ほど良い				
		121.9%	129.9%	144.9%	130.1%	△ 14.7%
	1年以内に支払期限が到来する負債に対する支払能力を示す指標です。 比率が高いほど健全性が高いとされています。					
自己資本比率	自己資本(純資産)÷総資産(負債＋純資産)	高い値ほど良い				
		51.5%	61.7%	71.6%	69.9%	△ 1.8%
	総資産に対する自己資本の割合を示す指標です。 比率が高いほど健全性が高いとされています。					
附属病院収入対 長期借入金返済比率	(大学改革支援・学位授与機構への返済(債務負担金、長期借入金))÷附属病院収入	低い値ほど良い				
		9.3%	8.0%	7.8%	7.2%	△ 0.6%
	附属病院収入(現金ベース)に対する債務負担金及び借入金の返済額の割合を示す指標です。 比率が低いほど健全性が高いとされています。					
人件費比率	人件費÷業務費	低い値ほど良い				
		49.6%	44.9%	45.1%	44.0%	△ 1.1%
	業務費に占める人件費の割合を示す指標です。 比率が低いほど効率性が高いとされています。					
一般管理比率	一般管理費÷業務費	低い値ほど良い				
		2.0%	2.3%	2.4%	2.4%	0.0%
	業務費に対する一般管理費の割合を示す指標です。 比率が低いほど効率性が高いとされています。					
外部資金比率	(受託研究等収益＋寄附金収益)÷経常収益	高い値ほど良い				
		8.4%	9.1%	9.3%	9.9%	0.7%
	経常収益に占める外部資金の割合を示す指標です。 比率が高いほど外部資金による活動が活発に行われたことになります。					
業務費対教育経費比率	教育経費÷業務費	高い値ほど良い				
		3.8%	3.5%	3.3%	3.0%	△ 0.3%
	業務費に占める教育経費(人件費を含まず。)の割合を示す指標です。 比率が高いほど教育活動に使用される経費の割合が高いことになります。					
学生当教育経費	教育経費÷学生数	大きい値ほど良い				
		205千円	214千円	202千円	190千円	△11千円
	学生数	10,083人	9,570人	9,525人	9,614人	89人
学生1人当たりの教育経費(人件費を含まず。)を示す指標です。 数値が大きいほど学生1人当たりの教育に要する経費が大きいことになります。						
業務費対研究経費比率	研究経費÷業務費	高い値ほど良い				
		6.8%	7.3%	6.5%	6.7%	0.3%
	業務費に占める研究経費(人件費を含まず。)の割合を示す指標です。 比率が高いほど研究活動に使用される経費の割合が高いことになります。					
教員当研究経費	研究経費÷教員数	大きい値ほど良い				
		3,785千円	4,977千円	4,324千円	4,673千円	348千円
	教員数(※)	974人	868人	876人	875人	△1人
教員1人当たりの研究経費(人件費を含まず。)を示す指標です。 数値が大きいほど教員1人当たりの研究に要する経費が大きいことになります。						
経常利益比率	経常利益÷経常収益	高い値ほど良い				
		1.7%	5.4%	5.8%	3.1%	△ 2.6%
	経常収益に対する経常利益の割合を示す指標です。 比率が高いほど収益性が高いとされています。					
診療経費比率	診療経費÷附属病院収益	低い値ほど良い				
		64.8%	65.2%	64.3%	66.5%	2.2%
	附属病院収益に対する診療経費(人件費を含まず。)の割合を示す指標です。 比率が低いほど効率性が高いとされています。					

※ 教員数については、附属明細書「(18)役員及び教職員の給与の明細」における常勤の教員に係る給与の年間平均支給人員数を指す。



『アートとサイエンスが共存する空間を』

熊本大学薬学部では、17世紀のオランダ絵画黄金期を代表する画家のひとり、ヨハネス・フェルメールの全37作品をリ・クリエイト*で一堂に展示しています。本作品は本学の「アートとサイエンスが共存する空間を」というキャンパス構想に共感して頂いた、島田俊郎様(株式会社あつまるホールディングス 前代表取締役社長)による個人寄贈です。

また、キャンパス内には、彫刻家の緒方信行先生が大学院教育学研究科在職時に制作された彫刻作品とその教え子たちの作品が多数展示されており、アートとサイエンスの共存を大江キャンパス全体で感じることができます。

※リ・クリエイトとは、経年変化してしまった絵画を、最新のデジタルリマスタリング技術によって、描かれた当時の色調とテクスチャーを求めて、原寸大で、鮮やかに再創造した、より精緻で高品質な絵画作品です。

KUMAMOTO UNIVERSITY
INTEGRATED REPORT 2024

国立大学法人熊本大学
統合報告書
2024

発行 国立大学法人熊本大学
発行日 令和7(2025)年1月
編集 大学情報分析室
デザイン 中川哲子デザイン室

写真：星野雅俊
(表紙、表2、表3、p18、p19、p42、p43)



熊本大学
Kumamoto University

国立大学法人熊本大学

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/>

